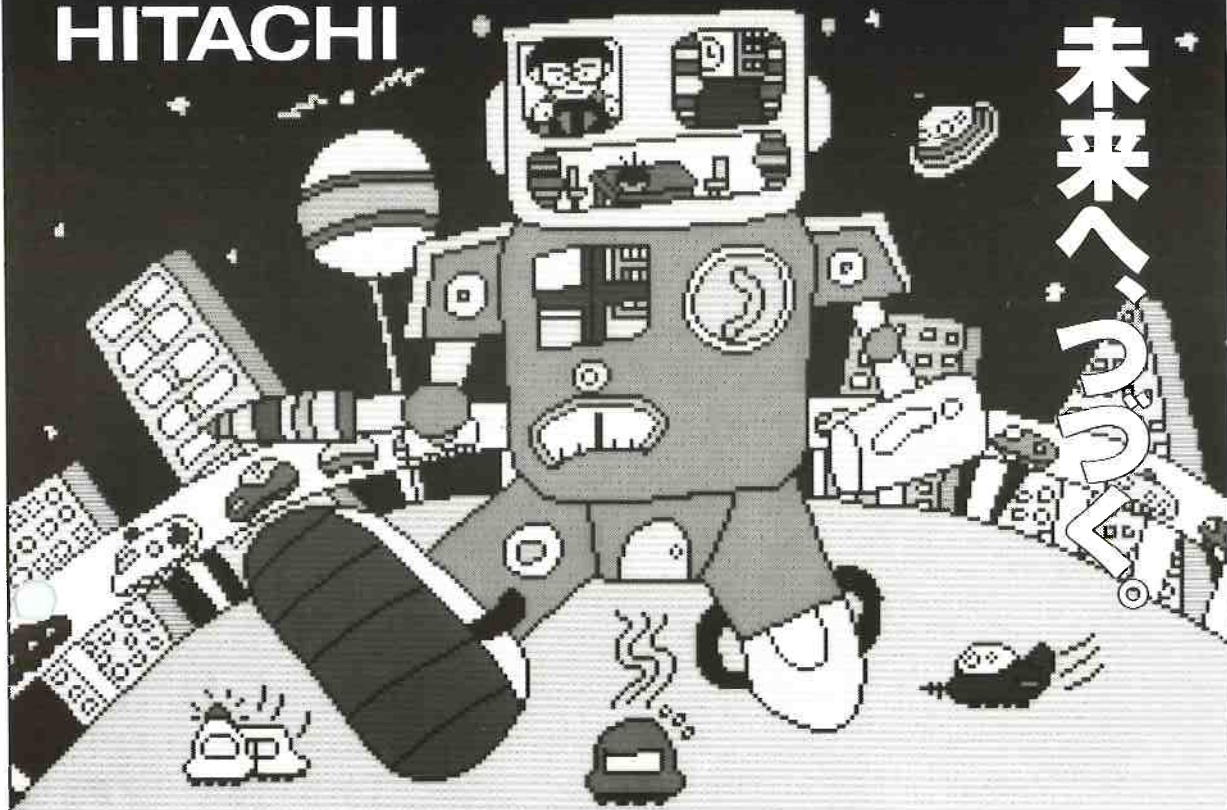


HITACHI

未来へ、つづく!



人がいて、街があって、豊かな社会があり、快適な生活がある。

そんな私たちの暮らしも、そう、調和をめざす技術の力で支えられているんですね。

上の絵は、小学6年生のCG(コンピュータ・グラフィック)アーティスト、

瀧本大介くんが描いてくれた「ロボット・ハウス」。

おうち全体がロボットになっていて、どこにでも行けるんですって。

次の、次の世紀くらいかな。こんなロボットが大活躍する日だって、来るかも知れません。

夢を見る力。夢を叶える力。未来へ、つづく。日立です。

ロボット・ハウスのお通りだい。

人と技術の理想をめざす

Interface

オリンピック都市サラエボの人々と ボスニアヘルツェゴビナのスポーツ選手を救おう 『オリンピック・ファミリー義援募金』について

皆様方にも新聞紙上等ですすでにご承知のとおり、第14回オリンピック冬季競技会場であったサラエボの街をはじめボスニアヘルツェゴビナの各地は戦火にみまわれ大変な状況になって居ます。我々の仲間であるハンドボール関係の多くの方々も多くの苦勞をして居られると思います。

スポーツを愛する仲間として何かお役に立てることは無いかと考えていた矢先に、財団法人日本オリンピック委員会の呼び掛けで義援金の募金活動が行われることになりました。当協会といたしましてもこの運動を全面的に支援して行きたいと思っておりますので皆様方の全面的なご協力をお願い致します。

オリンピックファミリー義援募金について

財団法人 日本オリンピック委員会
会長 古橋 廣之進

拝啓 益々ご清栄のことと拝察致します。

本会は、オリンピックの理念に基づき、オリンピックムーブメントとオリンピック競技大会への参加を通じて、人類が共に栄え、文化を高め、世界平和の火を永遠に灯し続けることを理想とした活動を続けております。

最近報道される旧ユーゴスラビア情勢は、混迷の度を益々深め、終わりを知らない内戦の状況は、日に日に悲惨さを増しております。戦禍に暮らす人々の恐怖と苦悩は想像を絶するところと思えます。

また、1984年平和の祭典である第14回オリンピック冬季競技大会を開催した都市、サラエボも、今は銃撃戦の舞台と化し、かつては、世界の若人がその技と力を競った会場は、見るも無残な姿となっております。

このような状況に対して、本会は、オリンピックムーブメントの立場から、当地の人々、特に平和のシンボルであるオリンピック都市サラエボの人々と、ボスニアヘルツェゴビナのスポーツ選手を救済するために、募金活動を実施することに致しました。

格別なるご高配とご援助を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

敬具

義援金の振込先はつぎの通りです。

銀行振込の場合	銀行名	第一勧業銀行渋谷支店
	口座番号	普通No2799568
	口座名義	財団法人日本オリンピック委員会
郵便為替の場合	郵便局名	渋谷神南郵便局
	番号	東京6-711733
	名称	財団法人日本オリンピック委員会

第44回全日本総合選手権大会

男子は日新製鋼が2連覇、女子はオムロンが7年ぶりの優勝

第44回全日本総合ハンドボール選手権大会は、12月10日から13日まで東京体育館にて開催された。

今回は前回の男子・日新製鋼、女子・北国銀行といった新王者を中心とした争いが期待されたが、緒戦で北国銀行が筑波大学に接戦の未敗退する波乱があり、興味を増した。

他にも序盤戦では、男子は本年の東四国国体に向けて強化が進む地元の香川県教員団が本田技研熊本を2点差で破る「殊勲」や、大阪体育大学が三景を堂々の「横綱相撲」でインカレ優勝の貫禄を示したり、中村荷役が日本リーグ前期に次いで本田技研を最後まで苦しめるなど大会を盛り上げた。

女子では最初に書いた北国銀行の敗退の他にも、昨年の全日本実業団選手権で優勝したジャスコが大和銀行に逆転敗退するなど、興味の尽きない争いが続いた。

【女子】

四強に残ったのは、オムロン、日立栃木、大崎電気工業、大和銀行となった。

武津、西村、グデリユーらの主力が抜けて若干力が落ちた部分を、

中国代表で一昨年夏、広島でのアジア選手権大会でも活躍し、日本でもおなじみの長身プレイヤー張泓と、アジアナンバーワンGKといわれている王濤を補強したオムロンに、昨年の「べにばな国体」で準優勝し、オムロン同様、中国から来日した蔣引娟と陳惠馨を補強し、全日本でも期待されている

アタッカーの貴田などの力により、攻撃力を大幅にアップさせた日立が挑戦する形の戦いは、開始直後蔣の連続シュートが決まり、試合の主導権を握るかに思えた日立だが、オムロンは同点に追いつくやサイドプレイヤー中山を中心にしたスピーディな攻撃とGK王の攻守が冴え、日立に連続得点を与えず、前半で14対5と大差がついた。

後半に入ると新井の連続ポイントなどで一時は4点差まで追ったが、試合には影響なく、結局24対17でオムロンが決勝に進出を決めた。

続く大崎電気対大和銀行の試合は、今大会では金、尹の両韓国プレイヤーが抜け、全体的に小粒になった大崎電気。西口、木口、GK上田ら期待の若手大型プレイヤーを揃えた大和銀行と、日本リーグ前期では5位・6位で折り返し

た両チームだが、高きで勝る大和銀行がどこからでも得点できる豊富な攻撃力でじわじわと大崎を突き放し、後半は一方的なゲームとなった。

こうして7年振りの優勝を目指すオムロンと大会ごとに調子をあげてきた念願の初優勝を目指す大和銀行との決勝は、開始直後大和銀行・伊藤の速攻シュートが決まり、オムロン・橋本のポストシュートで同点にしたが、大和銀行も荒川のポストシュートなどで3連続得点をあげた。このまま波にのるかと思われた大和銀行だったが攻撃面でのミスが続き、オムロンにも連続得点を与えられた。以後取っては取り返すといった状態が続き、オムロンは、前日再三の攻守をみせたGK王のタイミングが合わな

いたため主導権が握れず、見かねたベンチも川島に交代した。12対11の大和銀行1点リードで前半を終了した。

後半もオムロン・川島、大和銀行・増見両GKの好守が続き二進一退の攻防が続いたが、7分過ぎに比嘉のセンターからの連続シュートが決まったオムロンは徐々に大和銀行を突き放し、途中大和銀行は

10分以上も得点を決めることができず、最後は26対17でオムロンが4度目の優勝を果たした。

今大会の直前、リトアニアで開催されていた世界選手権に出場していた選手の何人かが元気ないのが気になった。

一方男子の四強は、本田技研、大同特殊鋼、湧永製薬、日新製鋼とほぼ順当な結果となった。

GK橋本から山村、平松らに上げる速攻で活路を見い出したい本田技研と盧、林の韓国パワーを中心にセットからの攻撃に威力を発揮する大同特殊鋼との戦いは、橋本にいつもの攻撃的なキーピングの冴えが見られず、一度もリードすることなく28対21で大同特殊鋼に凱歌が上がった。

2か月ほど前、「べにばな国体」で合同チームを組んで二連覇を果たした湧永製薬と日新製鋼との12・12決戦は、広島の地元マスコミも力を入れており、前半開始直後湧永製薬はエース中山の連続シュートなどで飛び出すか見えませんが、今大会の照準をこの試合に合

わせていた日新製鋼のどこからで

【男子】

もポイントでできる豊富な攻撃力で14対14と追いつき、興味がさらに湧いた。

後半に入ると満を持していた「リフエース」のベテラン西山が登場、試合も一進一退の状態が続きついに延長線となった。比較的大味の続いたそれまでの準決勝3試合だけだけに、ことさら館内も湧いた。終了直前湧永製薬はPTを得、ここまで日新製鋼のGK宇田川に本来のらしきが見られなかったが、中山の一投を見事に防ぎ33対32と大熱戦に終止符が打たれた。

結局決勝は、大同特殊鋼と日新製鋼という2年連続の対戦となった。両チームとも開始直後から積極的に前に出るデイエンスでロングシュートを防ごうとした。大同特殊鋼・林、日新製鋼・宇田川両GKの再三の好守もあり、決勝戦らしい見ごたえのある内容が終始続いた。20分過ぎ、日新製鋼は腰痛のため前日の湧永戦にベンチにさえ入らなかつた武田を投入するが、大同特殊鋼が若干の主導権を握ったまま4点リードで前半を終了した。ハーフタイムを終え、ベンチに戻った両チームを見ると、

●第44回全日本総合選手権大会

どちらが負けているのかわからない、と思えるほど日新製鋼のムードが明るい。特にムードメーカー野中の掛け声がそれを象徴している。逆にリードしている大同特殊鋼に堅さが見られる。確かに大同特殊鋼は、前日10得点をあげた、オリンピックプレイヤー。林に牙えが見られず、前半はわずか1得点のみと完全に攻撃の幅が狭い。後半になると準決勝同様に日新製鋼は「リリーフエース」が登場した。ここでデیفフェンスは堀田、武田、野中。オフフェンスになると西山、林、木村と3人ずつが交互に登場し、反撃の狼煙をあげた。果たして日新製鋼のペースとなり、計算したかのように西山のシュートで同点になると一気に突き放す。以後一度同点にされたものの試合終了まで日新製鋼の怒涛の攻撃が続き、二連覇へと突き進んだ。若手から中堅、ベテランとうまく歯車がからみあった日新製鋼の優勝。チームワークも良く、「日新製鋼時代」を築き上げる可能性も秘めている。

最後に蛇足だが、決勝当日はサッカーのトヨタカップ、ラグビーの大学交流試合が周辺で開催されており、千駄ヶ谷駅は大変な人込みだった。人気ではこの二競技には及ばないが、いずれ肩を並べる日が来ることを願って止まない。ハンドボールを愛する者として。

(白井)

男子

1回戦

本田技研 23 [13 | 9] 16 京都教員ク

〔戦評〕前半開始後少々固さの見える本田に対し、京都クがうまく攻撃し、一進一退のゲーム。しかし、残り5分、本田のサイドシュートなどで4点リードで前半終了。後半、京都クも必死の追い上げをするが、本田の厚いデیفフェンスを破ることができなかった。

中村荷役 輸 38 [16 | 12] 29 早稲田大

〔戦評〕エース岩本、GK荒木を欠く早稲田大が前半より頑張り、善戦、4点差で折り返す。後半、中村荷役が早稲田大のミス速攻につなげ加点、早稲田大も平田、力島が打ち返すがおよばなかった。

大崎電気 38 [17 | 8] 18 氷見 クラブ

〔戦評〕前半20分頃まで氷見はテクニカルなパスワークからポスト、サイド、ブラインドのミドルなどで大崎の高さのあるデیفフェンスをよく崩して善戦したが、次第に動き、パスワークなどを読まれ、パスカットからの速攻などで6点連取され、ゲームの流れは一気に大崎に傾き17-8で前半終了。後半も13分頃までは前半のスタート直後同様互角にわたり合った

が、交替メンバーに余裕があり、スタミナ、スピードに勝る大崎が連続して得点をあげ健闘する氷見クを突き放した。

大同 38 [15 | 5] 11 法政大

〔戦評〕先制点は法大があげたものの、大同は着実に速攻で得点をあげ、10点差で前半を終える。後半に入っても大同の勢いは変わらず、法大のミスから速攻につなげて得点を重ね、法大の若さあるプレーを寄せつけず圧勝した。

湧永製薬 39 [21 | 12] 28 パームヒルズ

〔戦評〕パームヒルズが小技で高さのデیفフェンスを破り、立ち上がり互角に戦うが、10分過ぎより地方に勝る湧永が速攻、セットで次々に加点していく。後半も同じ展開で6点差まで詰め寄るが、15分過ぎにまたも大きいボール回しで湧永が突き放す。ボール操作はパームヒルズも負けていないが、選手層の厚さが勝敗を決めた。

大阪 27 [10 | 6] 15 三景 体育大

〔戦評〕前半、立ち上がりから両チームともフットワークを十分生かしたデیفフェンスで10分過ぎまで2対2のロースコア。その後は大体大・山口のミドル、松村のカットインに速攻、三景は斉藤のロ

ング、ポストで1点を争う。後半は大体大はGK四方の好守からスピード豊かな組織的な攻撃で得点を重ね、大差の勝利を飾った。

香川教員 27 [14 | 11] 25 本田技研

〔戦評〕前半立ち上がり、本田熊本のポスト、速攻から連続PTを誘い先制するも、香川も河合のカットイン、スカイプレーで同点とし、ゲームは一進一退となる。香川は2回の退場者を出し、本田が4点差をつけるが、香川も粘り強く攻めて22分に同点、27分には相手退場の間に逆に3点差をつけ前半を終了する。後半になっても両チーム確実なプレーが持続せず、両GKのファインプレーもあって接戦となるが前半のリードを守った香川に勝利がとび込む。

日新製鋼 41 [15 | 12] 26 筑波大

〔戦評〕前半、昨年チャンピオンの日新はカットイン、ポストプレーなど多彩な攻撃で得点を重ねた。これに対して筑波大も学生らしくすがすがしいプレーで食い下がり、3点差で前半を折り返した。後半に入ると、力の差がはっきり現われ、10分過ぎに10点差が開き、最終的に41対21と大差をつけた。

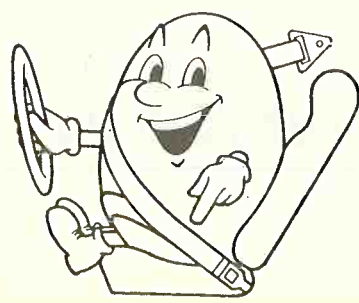
2回戦

本田技研 23 [14 | 11] 22 中村荷役

〔戦評〕前半、両チームともミス

スピードひかえて安全運転

シートベルトを締めましょう



が目立ったが、本田GK橋本の好守で中村荷役に3点の差をつけ折り返した。後半立ち上がり、中村荷役は速攻とスカイプレーで1点差に詰め寄ったが、本田もポスト、ロングで4点連取し、このままのペースで進むかと思われた。しかし、中村は呉の活躍でじわじわと追い上げ、再度1点差とし、残り20秒に同点をねらったシュートがはずれタイムアップとなった。

大 同 21 | 10
特殊鋼 38 17 | 17
27大崎電気

〔戦評〕立ち上がり5分、大崎はバランスのよい攻撃で4対2とリード。ここで大同GK林が好守を見せ、これをきっかけに大同が4連取して逆転、盧、林のロングがよく決まり、これにポスト、カットインと他のプレーヤーも持ち味を出し、20分過ぎの6連取で19対8と完全にゲームの主導権を握った。後半、ミスが少なくなり、動きの量を増した大崎は必死に追いつがるが、大同の大砲コンビ、林、盧を守ることができず、大同が余裕をもって逃げ切った。

湧永製薬 42 20 | 10
22大 阪

〔戦評〕前半、湧永の玉村、中山のロングシュートで試合リズムをつかみ、20分にはダブルスコアになってしまった。しかし、大体大も泉などの活躍で点差のわりに活気あふれるプレーで善戦する。湧永、大体大の両チームともに速い

展開で進み、20対10と湧永の大量リードで折り返す。

後半、地力に勝る湧永は多彩なプレーで加点する。大体大も随所ですばらしいプレーを見せてくれたが及ばなかった。

日新製鋼 39 18 | 12
21香川教員

〔戦評〕立ち上がり、香川教員が2点連取したが、日新もスピードある攻撃で一進一退の展開となった。しかし、15分過ぎから徐々に日新が引き離し、前半6点リードで折り返した。後半に入っても地力の差を見せ一時日新が退場で4人となり、香川の追い上げのチャンスがあったが生かせず、結局39対20で日新が勝利を収めた。

大 同 14 | 9
特殊鋼 28 14 | 12
21本田技研

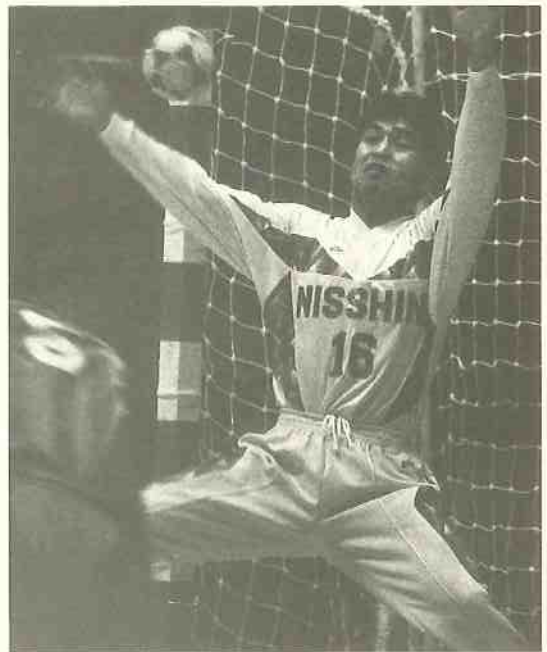
〔戦評〕前半4分過ぎまでは本田GK橋本、大同GK林の両選手がよく守り、得点を許さなかったが、大同・盧、林のロングシュートが

得00110023026116
 本00110023026116
 田00110023026116
 高橋弥丹藤立内大梅平粟山

GK
 FP
 審判
 菅野

得002200052210720
 大秋内高朝植藤末佐阿
 吉藤村生木井岡藤高
 林藤村生木井岡藤高

進決勝



日新製鋼のゴールを守り抜いた宇田川

おもしろいように決まりだした。本田も平松のミドル、山村のサイドで頑張りを見せたが、大同が5点をリードして前半を終える。後半、本田・平松のミドルで先取点をあげ、本田が攻守のリズムをつかんだが、大同も末岡の頑張りなどで本田をパワーでねじ伏せた。

日新製鋼 33 14 | 14
24湧永製薬

〔戦評〕湧永・中山がカットインで先制、その後3点を連取。一方の日新は5分に初得点をあげ徐々に追い上げ、前半終了間際に源内のサイドシュートで同点として前半終了。後半に入り、日新は西山を起用、ミドルシュートなどで残

り1分30秒に逆転。しかし、湧永も粘り、残り20秒に中山が同点シュートを決めて延長へ。
 延長前半、湧永・中山が先制したが、日新も坂口ですぐに追いつき逆転。後半に入り、湧永は同点となるPTを日新GK宇田川に止められ、日新が1点差で辛くも逃げ切った。

得008143290050
 湧野藤巻原村田井山取田中山
 永野藤巻原村田井山取田中山
 河井酒河玉堀新中荷高田杉

得00446003511544
 新原川田山沢斐村田内口中
 日篠字堀西鮎甲林木池源坂野

技を制す!

スポーツスピリット

体育施設の総合メーカー



日本ハンドボール協会検定工場
 国際体操連盟公式競技認定品製造工場
 日本体操協会器械器具検定工場

本社工場/広島県福山市引野町5丁目4番23号 千721 電話(0849)41-0230代
 大阪支店/大阪府八尾市若林町1丁目70-1 千581 電話(0729)48-3580代
 営業所/東北営業所 名古屋営業所 福岡営業所 沖縄営業所

決勝

日新製鋼 28
19-11 24 大 特殊鋼 同

〔戦評〕決勝は日新対大同という昨年と同じ顔合せとなった。雪辱に燃える大同は、盧のロング、末岡、佐藤の速攻がよく決まった。日新はやや固さが見られたが、G K宇田川がよくノーマークシュートをブロックし、4点差で前半を終了する。

優勝手記

先に行われました第44回全日本総合選手権大会に於いて、我が日新製鋼チームは昨年の初制覇に続き連覇を果たすことができました。この栄冠は、昭和35年創部以来、これまでチームを支えて戴いた先輩諸氏をはじめ、関係者の方々のお陰であると厚く感謝しております。

●第44回全日本総合選手権大会
さて、今大会の試合を振り返って見ますと、まず1回戦の筑波大学との試合ですが、結果は別として、主力選手が世界学生選手権で欠いていたといえ、個性溢れる積極プレーで随所々に好プレーが光り、本当に学生らしいチームとの印象を受けました。
続く2回戦は本田技研熊本を破った香川教員チームと当たりました。流石に教員チームのトップら

にリズムを取り戻し、10分過ぎに逆転。その後もG K宇田川がよく守って2年連続優勝を決めた。

得点
0 0 2 1 0 0 7 1 2 8 3 0
同 吉 藤村生木 井 岡藤萬
大 秋 内高朝植 藤 末佐阿

G K 審・浜田
F P 小笠原
新 原川 田田山斐 村田内口中
日 篠田 堀武西甲 林 木池源坂野
得 0 0 3 1 3 4 4 3 4 0 3 6 1
28

日新製鋼監督 泉 喜久男

しく上手いプレーに翻弄される場面もたくさんあり、我チームの選手も参考になったと思います。準決勝は予想どおり湧永製薬と当たりました。同じ地元のチームで手の内は知り尽くしており、また、共に日本リーグ前期を同率トップで折り返しています。加えて相手チームは1・2回戦にも危なげなく勝ち抜き、勢いに乗っているようでした。

今シーズンは公式戦では負けが先行しており、チーム内でも大会前から「この一戦が今大会の天王山である。」と、言わずとも全員が思っていたようです。
試合は予想どおり一点を争う白熱した展開となりましたが、終盤になって少しずつ流れが変わり、追いついた当チームに勝利の女神

が微笑んだと言えましょう。決勝は、昨年と同じ顔合わせの大同特殊鋼戦となりました。昨シーズンのリーグ後期で黒星を喫して以来の戦いとなり、不安材料は沢山ありましたが、一応の目処であった決勝進出を果たすことができてチームの雰囲気は「勝ち負け云々よりも良い試合をしよう」とリラックスマードでした。

前半で4点のリードを許しましたが、勝負どころは必ず後半になると思っていましたので、満を持してベテランを入れ替え、ゲームの主導権を握り、そのまま勢いに乗って勝利することができました。若手と中堅、ベテランがうまくかみ合った全員で掴んだ勝利であったと思います。

今大会を通じての私なりの勝因を述べてみますと、まず第一に、昨年の大会の優勝がかなりの自信に繋がったと言えます。選手各人が、試合展開を冷静に判断し、勝つ為に自らの役割を実践しようとする術がついて来たのだと思います。「勝つことが薬」正にそのとおりだと思えました。

第二に、チーム内での「信頼」です。昨年はただガムシヤラにやっけて来て気付いたら優勝していたという感じでしたが、今年は、7月の前期リーグ終了から国体を目指す者、若手のJHLカップを目指す者、この大会のみを目指すベテラン、負傷者、全日本の一員と、

昨年と違いチーム全体としてまとめるのが難しく、この大会までのコンディションづくりが大変気遣いました。

大会1週間前はムードも今一つでしたが、選手各人が今大会に向け上手く調整できて本番でピークに持ってきてくれました。
第三は、やはり会社を挙げての全面的支援です。昨年と比べ今年は決して経済状況はよくありませんが、変わらずわがままを聞いて戴いたと思います。現在のチーム環境はこれまでになく充実しております。

「ハンドボール」は大変魅力的なスポーツだと思います。年々技術も向上し、戦法も多種再三です。知恵を出し工夫をこらして、是非とも日本のハンドボールが世界をリードして貰いたいと思います。また、その日は決して遠くはないと期待していますし、陰ながら各大会を通じてその手助けが少しでもできれば幸いだと思います。

全日本総合という年末のビッグイベントに優勝でき本当に嬉しく、また、その感激を味わうことができ幸せ者だと思います。
最後に思うままに書きましたが、今大会の開催にあたってご尽力頂いた関係者の方々にお礼申し上げ、優勝報告と致します。

ねばりは頑張り 気力は体力

医薬品 医薬品

効能・効果
●滋養強壮 ●虚弱体質
●肉体疲労・病後の体力低下・胃腸障害・栄養障害
●発熱性消耗性疾患・妊娠授乳期などの場合の栄養補給

キョーレオピン KYOLEOPIN LIQUID
レオピンファイブ

湧永製薬株式会社
コソナ
●札幌 011(747)2166 ●東京 03(3293)3351 ●名塚 052(971)5901
●大阪 06(458)8901 ●広島 082(264)4116 ●福岡 092(481)7382

女子

1回戦

シャト
レーゼ 31

筑波大 26

大和銀行 19

日立栃木 30

オムロン 24

15 京都
16 6 教員ク

15 13
11 11 24 北国銀行

11 13
8 5 18 武庫川

16 15
17 17 32 日本

14 10
10 12 17 日立栃木

〔戦評〕開始直後、シャトレレーゼが一方的な試合展開になるかと思われたが、京都教員クもコンビネーションプレーでよく盛り返し、一時は1点差まで詰め寄る健闘を見せた。後半に入ると、やはり力に勝るシャトレレーゼが脚力にものをいわせ勝利をものにした。

〔戦評〕立ち上がりこそ北国のスピードに筑波大は固さが見られたが、徐々に得意のコンビネーションからミドル、速攻、ポストと学生らしい思い切りのよいプレーで北国を圧倒、15対13と2点をリードして前半を折り返す。後半、北国は5連続得点で18対15と逆転するが、筑波大もここからミドルを中心に盛り返し、15分に再逆転、24対21と3点をリード。しかし、北国も3連取で24対24と追いつくが、残り2分、筑波大がミドル2本を決めて北国を破る。

〔戦評〕前半は開始早々から両チームとも激しいディフェンスで警告、退場者が続出。オムロンは速攻、セットからのカットインプレーで得点を重ねるのに対し、シャトレレーゼは小松のロングとポストへの手渡しプレーで食いつがる。シャトレレーゼにとつて悔やまれるのは、オムロンが退場者2名を出した時に連続チャージでチャンスをつぶしたことである。後半も最後まで退場者が続く激しい攻防のなか、全員の速攻、ハーフ速攻の

〔戦評〕立ち上がり日本は大は3・2・1のディフェンスから速攻を連発しリズムをつかむが、市来を中心とした鋭いフェイントとパスワークで勝負する日立に粘られ、23分について逆転された。後半に入り、日本大は得意の守ってからの速攻が冴えわたり再度逆転をするものの、退場者を多く出し、最後までリズムに乗り切れずに敗れた。

〔戦評〕試合開始早々から両チームともカットインやポストプレーを主体に攻防を展開し、1点を争う激戦となった。後半に入っても流れは変わらず一進一退の接戦となった。結局、この接戦をものにしたのは大和銀行。ジャスコのミスを確実に速攻で得点しただけ勝利を得たといえる。

日本 36
18 11
18 14 25 殖産

13 7
13 15 22 射水

12 9
12 4 13 シャトレ

16 15
17 17 32 日本

14 10
10 12 17 日立栃木

〔戦評〕両チームとも緒戦とあって初歩的なミスが目立った。日本大は不安定な殖産銀行の攻防に対し、新井のサイドシュート、桐谷のカットインなどで確実に得点を重ね、18対11とリードして前半を終了。後半に入り、殖産銀行は高橋を中心にゲームを展開するが、日本大も攻撃の手をゆるめずにポストシュート、ロングシュートと多彩な攻撃で得点し、36対25で日本大が勝利を取めた。

〔戦評〕今年、チームの若返りをめざしメンバーを一新した大崎は野田を軸に足を使ってスピーディなハンドボールをめぐしているが、コンビネーションに今ひとつ課題があるといえる。富山のクラブチームとして全日本に初出場してきた射水クラブは、大崎のこの点についてくらくらつき、林のロングや今井のカットインで善戦した。試合は地力に勝る大崎が結局4点差で射水クラブを突き放したのも

〔戦評〕立ち上がりは大崎の動きがよく、速攻、サイド、ポストと得意のバターンでペースをつかんだ。一方筑波大は、立ち上がりこそ前日の勢いはなかったものの、稲次、野村のロングシュートをきっかけにペースを取り戻し、一進

一退の展開となった。後半に入ると、大崎・目黒のロングシュート、カットインが続いて決まり、筑波大のミスも合わせてあつという間に点差を広げていった。一方筑波大も小谷内のロングシュートなどで反撃に出たが、大崎の勢いを止めることはできなかった。

〔戦評〕試合開始早々から両チームともカットインやポストプレーを主体に攻防を展開し、1点を争う激戦となった。後半に入っても流れは変わらず一進一退の接戦となった。結局、この接戦をものにしたのは大和銀行。ジャスコのミスを確実に速攻で得点しただけ勝利を得たといえる。

14 10
16 10 20 工業

13 7
13 15 22 射水

12 9
12 4 13 シャトレ

16 15
17 17 32 日本

14 10
10 12 17 日立栃木

〔戦評〕前半立ち上がり、両チームともミスが目立ち一進一退の攻防であったが、日立が中盤から4連取し、4点差で前半終了。

〔戦評〕立ち上がりこそ北国のスピードに筑波大は固さが見られたが、徐々に得意のコンビネーションからミドル、速攻、ポストと学生らしい思い切りのよいプレーで北国を圧倒、15対13と2点をリードして前半を折り返す。後半、北国は5連続得点で18対15と逆転するが、筑波大もここからミドルを中心に盛り返し、15分に再逆転、24対21と3点をリード。しかし、北国も3連取で24対24と追いつくが、残り2分、筑波大がミドル2本を決めて北国を破る。

〔戦評〕前半は開始早々から両チームとも激しいディフェンスで警告、退場者が続出。オムロンは速攻、セットからのカットインプレーで得点を重ねるのに対し、シャトレレーゼは小松のロングとポストへの手渡しプレーで食いつがる。シャトレレーゼにとつて悔やまれるのは、オムロンが退場者2名を出した時に連続チャージでチャンスをつぶしたことである。後半も最後まで退場者が続く激しい攻防のなか、全員の速攻、ハーフ速攻の

〔戦評〕立ち上がりは大崎の動きがよく、速攻、サイド、ポストと得意のバターンでペースをつかんだ。一方筑波大は、立ち上がりこそ前日の勢いはなかったものの、稲次、野村のロングシュートをきっかけにペースを取り戻し、一進

一退の展開となった。後半に入ると、大崎・目黒のロングシュート、カットインが続いて決まり、筑波大のミスも合わせてあつという間に点差を広げていった。一方筑波大も小谷内のロングシュートなどで反撃に出たが、大崎の勢いを止めることはできなかった。

14 10
16 10 20 工業

13 7
13 15 22 射水

12 9
12 4 13 シャトレ

16 15
17 17 32 日本

14 10
10 12 17 日立栃木

〔戦評〕前半立ち上がり、両チームともミスが目立ち一進一退の攻防であったが、日立が中盤から4連取し、4点差で前半終了。

〔戦評〕立ち上がりこそ北国のスピードに筑波大は固さが見られたが、徐々に得意のコンビネーションからミドル、速攻、ポストと学生らしい思い切りのよいプレーで北国を圧倒、15対13と2点をリードして前半を折り返す。後半、北国は5連続得点で18対15と逆転するが、筑波大もここからミドルを中心に盛り返し、15分に再逆転、24対21と3点をリード。しかし、北国も3連取で24対24と追いつくが、残り2分、筑波大がミドル2本を決めて北国を破る。

〔戦評〕前半は開始早々から両チームとも激しいディフェンスで警告、退場者が続出。オムロンは速攻、セットからのカットインプレーで得点を重ねるのに対し、シャトレレーゼは小松のロングとポストへの手渡しプレーで食いつがる。シャトレレーゼにとつて悔やまれるのは、オムロンが退場者2名を出した時に連続チャージでチャンスをつぶしたことである。後半も最後まで退場者が続く激しい攻防のなか、全員の速攻、ハーフ速攻の

〔戦評〕立ち上がりは大崎の動きがよく、速攻、サイド、ポストと得意のバターンでペースをつかんだ。一方筑波大は、立ち上がりこそ前日の勢いはなかったものの、稲次、野村のロングシュートをきっかけにペースを取り戻し、一進

一退の展開となった。後半に入ると、大崎・目黒のロングシュート、カットインが続いて決まり、筑波大のミスも合わせてあつという間に点差を広げていった。一方筑波大も小谷内のロングシュートなどで反撃に出たが、大崎の勢いを止めることはできなかった。



オムロン・中山美和子のシュート

●第44回全日本総合選手権大会

〔大和〕見田口池藤野田松川
〔増上西木吉小伊日竹植荒〕
得00402773605

G K F P 審・武智
松原

〔大南〕高杉前広酒鷺野富田
〔崎雲片黒祖原川瀬井宮田中〕
得000012063221

〔戦評〕今大会勝ち上がるたびにリズムのあつてきた大和が立ち上

大和銀行 34
13-10
21-7 17 大崎電気

〔オム〕島 田本山藤田嘉村田中
〔川王〕上橋中齊古比石吉田 張
得00021100300035

G K F P 審・田村
斎藤

〔日坂〕吉新神飯貴市 堤 蔣陳
立本 鶴井長塚田来 柏
得00410021243

直後に同点にしたオムロンがすばらしいフットワークを使ったディフェンスからリズムをつかみ、各選手が持ち味を十分に発揮し、ミスの目立つ日立を大きくリードする。後半は、日立が新井の活躍で一時5点差まで詰め寄るが、オムロンも張のポスト、中山の速攻で盛り返し、中盤以降は互いに得点を重ね合い、前半のリードを守り抜いたオムロンが見事に決勝戦への切符を手中にした。

34

17

24

17

決勝

オムロン 26
15-12
11-5 17 大和銀行

優勝手記

〔戦評〕前半は前日までの動きが見られないオムロンに対し、のびのびとプレーする大和が4対1とリードする。15分に同点としたオムロンがそのまま逆転するかと思われたが、大和GK増見のたび重なる好守によってリードを奪えな

がりから着実に得点を重ね、前半15分で7対4とリードしたが、15分からの大崎の3連続得点で同点に追いつき会場を沸かしたが、その後は大和の速攻が冴え、一方的な試合展開になってしまった。

例年この時期の東京は寒く、どのような対策をすれば良いのか、南国のチームとしては寒さ対策も頭に入れ、そして、新装となった東京体育館メインアリーナの中央コートで決勝戦を戦いたいと、夢を大きく持って臨んだ大会でした。

92年度がスタートし、実業団選手権大会2位、日本リーグ前期2位、山形団体系3位と、なかなか優勝という言葉を手中にできず、ジレンマに落ち込んだ時期もありましたが、その中でも、山形団体系は私自身にとっても実業団チームととてもショックの大きな大会で

いまま1点差で前半を終了。

後半は、開始30秒にPTで同点としたオムロンが本来のリズムを取り戻し、中山の目の覚めるような連続速攻を中心とした展開で、小池の活躍で粘る大和を突き放し、見事な逆転優勝を取めた。

〔大和〕見本尾口池藤野田松川
〔増上西木吉小伊日竹植荒〕
得00030005204003

G K F P 審・岡本
島田

〔オム〕島 田本山藤田嘉村田中
〔川王〕上橋中齊古比石吉田 張
得0011505600026

オムロン監督 西窪勝広

あり、実業団チームの指導者の一人として、深く反省させられ、自分自身の足元を見直させられた大会でもありました。

また、高松市で行われたインターカレッジ大会を観戦し、一段と自身の気持ちが大きく揺れ動きました。それは、一戦一戦と観戦するごとに、大学生の個々のレベルの高さ、各チームの細かい試合内容に驚き、自チームに課題を持ち帰り、数多くの対策を練る必要性を感じ、数多くの情報集収したのも事実です。

そして、全日本女子チームが、世界選手権出場のために、主力選手

が1か月間不在で、大会前日に帰国というスケジュールも、私自身を不安にした材料の一つでもありました。

しかし、大会を終え、一つ、一つ不安材料を振り返ってみますと、いつもの東京の寒さもなく暖房設備の整った体育館での試合で寒さに気をつかう必要性がなかったこと、試合のアップ会場がなく、頭を痛めているチームもあるなかで、すべての試合が第1試合目で、フロアーで練習できた点など、不安材料が、一つ一つ消え、目の前が日々明るくなっていったことを思い出しています。

また、選手たちが自己管理をしっかりしてくれ、出発前の熊本での練習を含め、大会の最終日まで、一人のケガ、病人がなかったことが一番の勝因につながったと思っています。

試合内容も、チームの課題であったディフェンスからの速攻で得点でき、一試合、一試合、その時の主役が変わり、相手チームも目的を絞りづらかったのではないかと思っています。

そのような試合を毎日展開してくれた選手たちに感謝の気持ちで一杯です。実業団チームとして責任を保ってた大会でもありました。連日、また大会前から運営等の準備で遅くまでご苦労された関係者の方々のお力で、新装となった東京体育館で7年ぶりの優勝という思い出をつくれたことに選手と共に喜んでいきます。

来年も良い成績が残せるよう、またハンドボールが一日も早くメジャーなスポーツの仲間入りができるように選手と共に頑張ってくださいますので、今後共、ご声援のほどよろしくお願致します。



世界女子B選手権大会報告

監督
緒方 嗣雄

大会を前にして1週間の国内合

宿、そして最終調整地としてハンガリー、オーストリアでナショナルチームと調整試合にて個人戦術とチーム戦術の確認を行った。初めてナショナル選手としてヨーロッパの大きな選手としてヨーロッパの大きい選手と試合をするのに戸惑いを見せていたが、4、5試合目は次第に慣れてきて思い切りの良いプレーが見られるようになった。オーストリアでは、フランスチームのビデオを借りて相手チームの情報も入手できた。また、いろいろな国のチーム力も聞くことができ、今までになかった自信をもって大会に臨むことができた。

11月27日、リトアニア（ビルニユス）に到着。雪がちらついて寒く、前情報通りの寒そうな国であり、我々選手団も落ち込み気味で、気持ちとなるが、ホテルは立派で、一応落ち着いて生活できそうである。第1戦。相手のイタリアチームの飛行機が到着できず試合時間の大幅変更。我々も初めてのことであり、IHFの意見を了承することにした。オープンングセレモニーの前の予定であったが、オープ

ニングセレモニー、オープンゲーム（リトアニア対フランス）の後となり、試合開始は午後9時30分からとなった。

オープンングセレモニーは、午後7時から約30分間、20人ぐらいの観衆が集まり、音楽隊のファンファーレに始まり、子どもたちの民族衣装を着けたダンスがあり、簡素ではあったが、盛り上がったセレモニーであった。その後は、リトアニアの試合。テレビ中継もあり、一方的にフランスを破る。観衆の口笛が終始鳴り続け、審判の笛が聞こえなくなることも度々あり、ミスジャッジがあるとブライイングやら床を鳴らすなど、観衆もよくハンドボールを知っており、国全体として盛んなように感じている。我々の試合も4時間半遅れでいよいよ試合開始。国外で聞く国歌に緊張し、また、初出場選手の緊張でコチコチのスタートであったが、先取点をとったことにより早く平常心に戻り快調なペースでできた。特に後半は、DFに注意をして速攻を出すことができた為に一方的な試合（31対15）となった。

第2戦目はリトアニア戦。昨日の試合内容の分析でロングシューとポストマンの合わせ、サイドマ

ンの鋭い切り込みを注意し、ポイントDFでなくラインDFができるようにスタート。全日本チームのロングシューをことごとくDFにカットされ、一気に速攻にもついていかれて得点を重ねられた。観衆の口笛等にも戸惑い、一方的なゲームとなって我々のプレーは何も出ずじまいであった。（40対22）

第3戦フランス戦。この試合は我々にとって今大会の一番大切な試合である。あまりにもアレシヤヤリがかりすぎたのか、また、昨日の試合のショックか、スタートからリズムに乗れず得点がとれない。連続ミスは出る。一番心配していたパシブプレーを何回もまっただ前だった。後半に入り、DFを一一五に変え守りよりも得点をとりに行くことにした。順調に得点を重ね1点差になり、残り時間5秒で速攻でノーマーズシュートとなったが、フランスGKの好捕に同点とできず、18対19の1点差負け。非常に残念であった。第4戦のブルガリア戦。前大会で1点差で敗れ、今大会もあまり調子良くなさそうであり、我々の

勝つチャンスのある試合である。2戦続けて前半の調子の悪さがこの試合も同様に思わしくない。DFの悪さが尾を引き、退場者続出リズムをつかめない状態で終ってしまった。国際試合では、立ち上がりで主導権をとり、前半リードが必勝パターンにもかかわらず調子の出が遅い全日本である。

第5戦のチェコスロバキア戦。今大会決勝リーグが決定した後の試合で、緊張が切れているようでも落とし、開き直って試合に臨むことができた。気力の充実と全員が点を取ってすぐ取り返し、白熱した試合で9対11で前半を終了。エースをマンツーマンすることに

よりチェコもリズムをつかめていない状態であり、2点差も苦になつていなかった。後半に入り、一時は4点差が開かれるが、DFでリズムをつかみ、18点目で同点。これより終始リードし、結局23対21で勝利することができた。

大会事務局より4位という知らせがあったが、IHFの規定により25%ルールにてAグループで5位となり、Bグループ5位の北朝鮮と順位決定戦をすることになった。

順位決定9・10位戦。ペネベシエス市。ビルニユス市より北へバスで2時間、田舎町である。満員の観客で盛り上がった試合会場であった。9月の極東大会では24対32の8点差負けであり、この大会では必ず勝って借りを返したい大切な試合となった。北朝鮮のエースを完全ワンツーをし優位に展開する前半を2点リード。相手一人退場時のフォーメーションがよく決まった。後半に入り、一人退場者を出した際に5連続得点され、一気に離されかかったがよく辛抱し、同点で迎えた最後の我々の攻撃をインターセプトされ、1点リードを奪われて18対19で終了。またしても北朝鮮に敗れ、それも最後は自滅したような後味の悪い敗戦であった。

大会全体を通じて大切な試合、ブルガリア戦、フランス戦の2試合を落としたのが残念であるが、この2試合とも前半の大差が原因である。試合立ち上がりの気力の充実と集中力が欠かれないように思う。小さな選手が大きな選手に勝つためには、相当強い闘争心が必要である。スピードのある展開さえ良ければ得点は十分得られる。

順位決定9・10位戦。ペネベシエス市。ビルニユス市より北へバスで2時間、田舎町である。満員の観客で盛り上がった試合会場であった。9月の極東大会では24対32の8点差負けであり、この大会では必ず勝って借りを返したい大切な試合となった。北朝鮮のエースを完全ワンツーをし優位に展開する前半を2点リード。相手一人退場時のフォーメーションがよく決まった。後半に入り、一人退場者を出した際に5連続得点され、一気に離されかかったがよく辛抱し、同点で迎えた最後の我々の攻撃をインターセプトされ、1点リードを奪われて18対19で終了。またしても北朝鮮に敗れ、それも最後は自滅したような後味の悪い敗戦であった。

退場者を出さない防禦力の強化もこれからの課題である。今大会2位のチエコスロバキアを破りながらという残念な結果に終わったことに責任を感じ、深く反省いたしております。

健康管理からメンタル面まで大変お世話になりました高橋先生、ビデオ撮りからカメラマン、また選手を側面から励ましていただきました繁田先生、IHFのコンタクトから帰りの手続き等いろいろな面で力添えいただきました渡辺社長、大変お世話になりました。全日本総合選手権を控えた選手所属チームの関係者の方々に大変なご理解をいただき、この遠征、大会が無事に終わりましたことをお礼申し上げます。

コーチ
穂積 豊彦

昨年の4月、新生全日本チームのコーチをお引き受けして8か月あまりを振り返りながら、この度の世界選手権B大会の報告と反省そして、今後への課題を思うままに述べたいと思います。

極東大会(9月4日~12日)まで、選考合宿・直前合宿を含め3回、30日弱、新メンバーでコンビプレー・速攻のつなぎ・個人技能などの向上を図るには、あまりにも短い期間であった。

しかし、それだけに選手たちは全体・個別のミーティングを重ね

生活も含め、早く一つのチームらしくなろうとし、大会に向ける意気込み、努力はさすがと感心させられた。

そして、上海での大会。ここでハブニングは、国際舞台での経験不足からくる緊張、あがり、ビビりに起因すると思われるミスが多発であった。それは、精神的プレッシャーばかりでなく、たとえば、速攻中盤でDFに詰められた状況でのボール処理・行動判断が悪い為起こるパス・キヤッチミスやオーバーステップである。

これらから、危険な(プレッシャー)状況のなかで、あらゆる練習をしていかねばならないと感じた。それと、北朝鮮にみる、ゴールへの攻撃(突進)姿勢を、身体の小さい日本チームは、どうしても身につけなければと痛感した。そして、世界選手権B大会である。3位までに入り、A大会に出場することが目標である。

極東大会での反省を1つの課題とし、DF・OF面のコンビネーションの再確認と、個人技能の向上に重点をおき、本大会に向け強化を行った。

この間、選手たちは、個々の特徴を知り、気持ちもわかりあえるようになり、選抜ではなく、1つのチームとしてのまとまりを見せできた。

不安材料といえば、本番でのプレッシャーをどうはねのけ、自分

のプレーができるか?である。

大阪での直前合宿を終え、いよいよ出発である。大会前に、ハンガリー・オーストリアで、ヨーロッパスタイル・感覚に慣れるために5ゲームを行った。まず、ハンガリーのナショナルチームと、デブレツェン・ペーケシチャバの2市で対戦。ハンガリーもB大会に出場するとあって、その出来上り具合はよく、大型でスピードがあり、あたりまえのことではあるが、全員がどのような状況の中でも、動きの中でキヤッチングをしているため、攻撃展開がフリースロー以外で止まることがなく、かつ、コンビではないが、得点チャンスを狙っているのが、強いチームと印象づけられた。とくに、サイドプレイヤーのインへのから走りでもDFをくずし、ポストへのパスをいかしてくるプレーをみて、私の現役時代のソビエトチームを思い出し、そのかわらぬ有効性を感じずにはおれなかった。

この2試合から、サイドプレイヤーがDFにおしあげられたとき、DFをぬく方法と、から走りでDFを崩して、得点チャンスにつなげるプレーを身につけることができた。

オーストリアナショナルと2試合、ジュニアと1試合。1試合目の1-2-3のDFに対し、攻めることができな。前半8対19、ミス・パスカットから得点され、

浮き足立ってしまつて、何をしたいのかわからない。足も止まつてしまつて、攻撃に連続性がない。DF間が広いから、から走りやポストで展開すればいいのだが、時すでにおそく20-36で完敗。いろいろなDFシフトへの対応が遅すぎる。そして、パスアンドランでボールをつなぐことや、走ることでDFが崩せるという意識をもつともつともたせるべきであった。

これらのゲームから、学んだことは、いかなるDF・OFに対しても、即座に対応できる組織力を養成しなくては、いつも数ゲームを消化してからでないで勝つゲームができない。やはり、国際ゲームの不足を感じずにはおれない。見えぬ敵を想定しての練習も、所詮、想像の域をこえない。現実とは違う。

11月27日、リトアニア、ビルニェス空港到着、小雨。寒い到着ロビーは、荷物をとる部屋だけ。出迎へは通訳のエリカ(美人?)と世話役のギンタラス(通称ギンちゃん)。心配したホテルは一流の感じ。部屋も広く、湯も少し濁ってはいるがでる。食事は毎日同じパターンだったが、特に問題はなかった。

28日、対イタリア戦、個人技・スピードもさしてなく楽勝。第2戦、対リトアニア。参った。180cmの壁が立ちほだかる。ロングをうってDFの手、6mライン

召しませ自然。

シャトレゼのお菓子は山梨育ち。

日本の果実郷と極上の酪農地帯です。

澄んだ空気と豊かな自然を、満載しています。

そして、日本中をおいしい笑顔でみなをうらやまして、シャトレゼのフレッシュパワー、

ハンドボール部ともども、

さらには大きく飛躍しようとしています。

21世紀に向けて、

さらには大きく飛躍しようとしています。



Châtraise

株式会社シャトレゼ

山梨県東八代郡中道町下曾根3440-1 〒400-15
電話 (0552)66-5151(大代) FAX (0552)66-5156

にさがって、左右に動くだけのDF、なんとか突破口をひらこうとするが、プレーは読まれ、フェイントも突っ込みもフリースローになるだけ。完敗である。そして、心配されたのは、明日からのチームが同じDFできたらどうしようか、ということである。

やはりフランスは一線DFだ。戦術はさずけたが、それが裏目に

選手がそれを意識しすぎて、身体が動いていない、最悪のすべりだし、前半6対11、ハーフタイムで、さずけた戦術を忘れ、今までどりの攻撃に戻す。後半、逆転のチャンスはあったが、18対19で敗れる。一夜づけて、どうなるものではない。ただ、選手を感わしただけであった。大切なゲームだったのに、反省しきりである。

対ブルガリア戦。15対27で完敗。こんなはずじゃなかったのに。やはり昨日の後遺症か？ 無責任だが、もう、なにをしたらいいのかわからない。

最終戦、対チェコ。順位は5位と決まったし、昨日までのチェコをみていて、勝るとは思えない。開き直って思い切りよくやろう。チェコには油断があったのだらう。それに加えて、日本がよかった。昨日までと同じチームとは思えないほど、伸び伸びと思いきりよく、リズムにもり、23対21で逆転勝ちをした。感激、感動の

勝利だった。

4日、パネジェスへ移動。9・10位決定戦。5日、対北朝鮮戦。極東大会の借りを返したい。しかし、21対22でフランス戦同様1点に泣く結果となった。北朝鮮の再三にわたるGK顔面へのシュートには、大きな憤りと反感を、私だけではなく、関係役員・観客も抱いたに違いない。

目標の3位には、ほどとおい結果となったが、全日程を終了し、12月8日帰国。この遠征と大会に参加して、ヨーロッパのハンドボールを肌で感じる事ができた。そして何度もいうが、全日本は海外へたくさんで、たくさんの経験をつまなければいけない。選手はフュエル力・判断力そして『何がなんでも、1点をとってやる・守るんだ』という執念を身に付けることを、普段の練習のなかでやらなければいけない。

期間中、選手のコンディショニングに(心身共に)細心の注意をはらっていただいた。そして公私とも、よく動かれたドクター高橋、緒方監督、伊藤コーチをして選手たちから、多くのことを教えられたことに、感謝したい。

ドクター
高橋 義雄

はじめに

リトアニアは第2次世界大戦下

ドイツナチスのユダヤ人大虐殺時に、日本の杉原大使が、1人のリトアニア人にビザを大使の意志で発給し、その事実を全世界に知らしめ得たこと、大戦後閉鎖的社会にあり日本人を見る事がなかったことなどから、多くのリトアニア人は日本に好意的であった。

一方、選手諸君は直前合宿などで小侯君が左手捻挫をしていたぐらいで全体としては快調であった。また、食事は日本で自分が常時食しているセブンイレブンの弁当などに比し、栄養も量も充分すぎ、スタッフも選手も喜んでいた。

I、ワールドカップ経過

11月28日(イタリア戦)を前に小侯君は指のテーピングをし、疲労がみえないしはやや風邪がみの村山、松田君は点滴などを行い、万全の体制で試合に臨んだ。予想以上に相手の力は弱く、圧勝で疲労も残らず快調なスタートであった。

11月29日(リトアニア戦)は相手手が極めて大きく(人種特異性、圧倒的な応援もあり、その中で戦い、完敗であった。この日はドーピングがあり、貴田君が選出され行った。充分の尿採取が出来ず、リトアニアの選手も同様であったため、ドーピングドクター、ナースも含め6人で約10本のビールをあげ、一種のパーティーとなりシヤンパンももってきた)和気あいあいの中で終了した。

11月30日(フランス戦)は勝て

ると考えていたので、小侯、谷本君らのテーピングなど、各選手に種々の対処を行い万全の体制で臨んだ。結果は1点差で敗れた。充分に勝ち得る相手であり、こうちやく状態になった時、それに耐え、打ち破る目的意識を主とした精神強化が必要と思われた。この一敗は後の順位決定にひびき、今後の日本女子ハンドの方向性に影響を与えたかもしれない。

12月1日(休養日)は練習と市内観光であった。私は個人的に1880年台に開院されたWilms大

II、遠征中の外傷、疲労、精神状態

今回 外傷、疲労などを認めたのはいずれも活動量の多い、目的意識をより明確にもっていた選手であった。これらは約8名で他の8名とはほぼ半々であった。今大会は新生全日本女子第1回目の大きな国際大会として位置づけられるものであり、その中で多くの未完成的の選手諸君が、そうでない諸君の影響を(とりわけ北朝鮮のなかで)うけたものと思われ、今後の全日本が期待される。べちなみにもっとスピードとテクニクと戦略を身につけ復讐戦を誓った。実現するとよいが(…)

III、全日本チームの中におけるチームドクターの位置づけ

スポーツドクター?の目的は①健康の中でスポーツをとらせ、普及及び健康を保持しながらスポーツを行えるように指導する。②ス

ジュールが安定せず、集中力がなくなってきた。

12月5日(北朝鮮戦)、村山君は顔面に3度もボールを打ちつけられ、視力が落ち、スポーツといえない腹立たしいゲームであった。極めて危険な行為であり、チームドクターとして試合中止とさせるべきだったと思う。1点差で最後までセッたが、何ものこらない、試合であった。この北朝鮮戦のため、イラダチを残して全日程が終了した。

今回 外傷、疲労などを認めたのはいずれも活動量の多い、目的意識をより明確にもっていた選手であった。これらは約8名で他の8名とはほぼ半々であった。今大会は新生全日本女子第1回目の大きな国際大会として位置づけられるものであり、その中で多くの未完成的の選手諸君が、そうでない諸君の影響を(とりわけ北朝鮮のなかで)うけたものと思われ、今後の全日本が期待される。べちなみにもっとスピードとテクニクと戦略を身につけ復讐戦を誓った。実現するとよいが(…)

III、全日本チームの中におけるチームドクターの位置づけ

スポーツドクター?の目的は①健康の中でスポーツをとらせ、普及及び健康を保持しながらスポーツを行えるように指導する。②ス

ポーツを科学的に分析し、その能力をよりひきだすべく研究をする。③スポーツ障害を適切に加療するなどに別れる。

このようななかで帯同ドクターは、さらに、勝つためのコンディショニングが重要な仕事?となる。肉体のみならず、精神面の強化も必要で、ドクター自身に人生観がなければできないものと思えた。

このことから、ハンドボールなどの精神面の強化が必要なスポーツはお互いを知るために少なくとも4年間は同じスタッフでいくのが望ましい。諸外国もほぼ同様で、なじみのドクターないしは理学療法士が多い。外傷や疾患は現地で対応も可能で、むしろ帯同スタッフは戦略の分析、選手の精神、肉體面の維持強化が重要な任務であろう。このような流れを選手たちが充分知っていたれば、もしドクターがついていかななくても、選手たちは自己管理の大切さをむしろ学ぶであろう……。

おわりに

自分は多くの障害児、その両親を診、彼らが健常人? (健常人でもおかしな人はたくさんいるので?とした。) になるべくための赤裸々な努力、熱意という姿をみてきている。そこには科学ではなく、熱意という非科学を中心として科学を利用するという姿勢が、つらぬかれていた。全日本女子ハンドボ

ールチームも諸外国の圧倒的強さの打破という非現実的問題? に対し、強い目的意識をもって種々の経験を重ねて現実にしてもらいたい。

それらはすでに始まっており、北朝鮮戦をはじめ結果は不満足であったが、少しでも多くのものを得ようとし、勝つことにつなげようとしている。そして、最後にこのことを通して、私にさらなる熱意と挑戦という感動を与えてくれ、今後の私の生活に影響を与えたことを報告するとともに感謝する。今後選手諸君がさらに人間として成長し、多くの人々に生き方をおしえてくれることを期待する……。1人の人間として、今全日本ハンドボール女子チームは楽しみなチームであった。

(北海道立小児科総合保健センター 脳神経外科)

選手 村山みどり

平成4年4月に新しい全日本女子チームが結成され、3回の強化合宿と2回の国際試合を経験してきました。とりわけ、今回リトアニアで行われた世界選手権Bグループは、このチームになって初めてのヨーロッパ勢との対決でした。直前合宿では、ヨーロッパ勢の高さとパワーに負けまいよう真ん中4人のディフェンスの強化を図ったり、相手の高い壁の間からシ

ュートを狙えるような練習を積んでいきました。しかし、最初に訪れたハンガリーでのナショナルチームとの対戦で、日本で練習してきたことが全く通用しないことがわかりました。高さやパワーは勿論、スピードにおいてもハンガリーナショナルチームの方が格段に上でした。

次に訪れたオーストリアでのナショナルチームとの対戦も、1戦目はハンガリーとは一味違ったサイドやポストとの絡みを使った攻撃にディフェンスが崩され大差で負けてしまいました。しかし、2戦目では、やっと相手のパワーや高さにも慣れてきたのか、ディフェンスの動きが非常に良く、キーパーとのコンビも合い、負けはしたものの納得できるゲーム展開ができたように思いました。

大会では、日本はAグループで、イタリア、リトアニア、フランス、ブルガリア、チェコスロバキアと同じ組でした。この中でブルガリアとチェコスロバキアは、3年前の同じくこの大会で、フランスとは平成2年度のジャパンカップで対戦したことがありましたが、メンバーのほとんどが一新されていました。日本としても前回の大会を経験したのは、私と松田さんと比嘉さんの3人だけなので、ほとんど経験がないといっているようです。試合は、Aグループの方は首都

であるビルユニスで行われました。まず11月28日にイタリアと試合をしました。初戦にしては好調な立ち上がりで、日本の持ち味であるスピード溢れるゲーム展開ができ、31対15と快勝することができました。

続く2戦目は地元リトアニアでした。この試合では、まず会場の異様に飲まれてしまいました。観客たちの拍手と床を打ち鳴らす足踏みに審判の笛も全く聞こえない状態で、そのうえリトアニアが6mライン上にピタリとへばりついたディフェンスを引いた為、高い壁に攻撃を阻まれてしまい、ミスからの逆速攻で前半終了時点で18対8と大きく引き離されてしまいました。

後半は、少しでも得点しようとしてマイボールになってからの速い攻撃を試みましたが、リトアニアのスピードの方が一枚も二枚も上手で、結局40対22という大差で試合を終えました。

この試合で得たことは、相手のディフェンスラインが下がった状態で全くピストンをしないディフェンスを引かれると体格で絶対的に劣る日本としては、ロングシュートでは勝負できないし、かといってポストやサイドでの攻撃も相手の腕の中で泳いでいるようなもので容易にシュートまで打たせてもらえないということです。案の定、3戦目のフランスはリ

新しい時代を作ってゆくのは、
新しいひらめき。
そして、ひらめきを実現してくれる
素材が求められます。
常に新しい技術で新しい夢をかなえる
素材をお届けしてきた日新製鋼。
これからも時代に応える
新しい素材をみつめてゆきます。



明日の素材をみつめる
日新製鋼
東京都千代田区丸の内3-4-1
(新国際ビル) 2303-3126-5511 〒100

トアニアと同様なディフェンスを引いた為、前半は全く攻めきれず11対6で折り返しました。下がったディフェンスを予想した攻撃も付け焼き刃では通用する訳もなく、相手を波に乗せるだけでした。後半は日本らしい攻撃もできましたが、前半の5点差が尾を引き19対18と悔しい結果に終わってしまいました。4戦目のブルガリアもフランス戦と同様なゲーム展開に終り、大差で敗れてしまいました。予選リーグ最後のチェコスロバキア戦には勝ったものの、Aグループの5位に終り、順位決定戦で北朝鮮とあたることになりました。

北朝鮮には9月に行われた極東大会で32得点も取られ、日本のディフェンスの甘さを考えさせられました。その点を考え、エースのホ・ミョンスクにスタートからマンツーマンディフェンスをかけるという作戦で臨みました。前半は、両者共に堅さが見られましたが、北朝鮮側のミスが目立ち、日本が2点先行して後半に入りました。後半は、日本がまだ堅さがとれず、攻撃でのミスが目立つのに対して北朝鮮は、ディフェンスで徐々に調子を取り戻していきました。15対12から逆速攻などで一挙に連続6得点を許してしまい、15対18と北朝鮮に3点のリードを奪われてしまいました。その後も所要所で日本のミスが目立ち、結局22対21と後半は7点しかとれないという

惨めな結果で終わりました。試合前のミーティングで、さんざん北朝鮮の凄じい気迫や、ボールに対する執着心に負けないようにしようと話しかけたことが試合に全くなかされていませんでした。

今大会では、ヨーロッパの国々などのような戦い方をしなければならぬかという点でおおいに考えさせられました。身体的な面で不利な上に、スピードでも勝つことができず、ディフェンスも相手のパワーに押し切られてしまいました。日本は韓国のように鋭いフェイントやパスワークがあるわけでもないし、中国のように高さやパワーで互角に戦えるわけでもありません。このような現状で勝機を見い出すとしたら、とにかく前半は何としても食らいついでいき、攻撃面ではボールを長くキープし、ミスを最少限にとどめる努力をすれば、チェコスロバキア戦のように良い結果も生みだせると思いますが、

ただ、私たちの当面の目標は、次のアジア選手権であり、2年後のアジア大会だということです。韓国、中国、北朝鮮に対してどういう戦い方をしているかなければならないかを考えることが最優先でしょう。

これからは、限られた強化合宿の中でいかにして攻撃やディフェンスのコンビネーションをより確実なものにしていくか、精神的な

面をどのようにして鍛えていくかが、私たちの最大の課題であると思えます。

選手 山岸理津子

私も含め全日本初参加者が多かったこともあり、世界Bグループ選手権のステップとして臨んだ極東大会の結果もいま一つ。その後の合宿もままならない状態で臨んだ今大会、不安がなかったわけはありませんでした。

各チームでは別とし、全日本チームとしては初めてという人が多い中、大型チームでない私たちとヨーロッパ勢との体格の差は歴然としています。いったいどうしたら守れるのか、攻められるのか、考えていてもらちがあきません。

大会直前の遠征でハンガリー、オーストリアのナショナルチームと試合することができ、日本で今まで練習して来た中で、実戦で通用する作戦、しない作戦が見えて来たとともに新たにいくつかの作戦を加えることができました。

こうして、開催地・リトアニアに入りました。ホテルの状態、食料、気候、どれも前もって聞いていたものよりは良く、一安心といったところでした。

午前中、1時間くらいずつ各チームに練習時間が与えられ、調整することもできました。体育館の

方は、2m四方の正方形の板をいくつもつなぎ合わせベンキを塗ったもので、あまり良い状態ではありませんでしたが、下が空洞になっていたせいか、ボールの跳ね具合、足に對しての衝撃、ストップは、さほど悪いというほどではありませんでした。

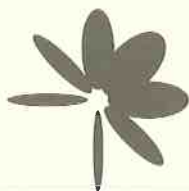
大会では、二つのグループに分かれ、日本はイタリア、リトアニア、フランス、ブルガリア、チェコスロバキアと同じ組でした。

第1戦目は、対イタリア。初戦ということもあり多少の緊張はあったものの、本来どりの自分たちのプレーができ、「スピード」をもったプレーができ、快勝することができました。

リトアニア戦では、地元ということもあり会場の観客も敵に回しての試合でした。

ベンチの指示はもちろん、選手の間でも声が聞こえない状態の中で6mライン上に壁のようにディフェンスを引かれ、ロングを打てばカットされ逆速攻、ミスも出てしまい前後半を通し大差で負けてしまいました。

フランス戦では、前の日リトアニアに引かれたディフェンスのことを考え、いくつかわ作戦を考えたとありますが、それが逆に形にこだわらずぎという消極的な結果を招いてしまいました。前半、思わぬ大差で負けていましたが、後半に入り、フリーな攻撃で攻め、2点差までつ



USAKI

大崎電気工業株式会社

東京都品川区東五反田2-2-7 〒141

TEL.03(3443)7171 FAX.03(3447)5844

め寄ることができました。この後、この1点差が大きく尾を引く結果となり、1点がどれだけ重いか思いらされました。

ブルガリア戦も他と同様、下がったディフェンスを引かれ、攻撃されては、前日にチェックしていたはずのプレーで得点されるという結果になってしまいました。

予選最終戦、チエコスロバキアとでしたが、気持ち的に楽だったせいもあり、勝利でしめくくることができましたが、フランスとの得失点差で5位となりました。

9・10位の順位決定戦では、北朝鮮とでした。北朝鮮には、極東大会で負けていたためなんとしても勝つ、そういう気持ちで臨んだ試合でした。前半、GK村山の好守もあり、2点リードしていましたが、後半に入り、要所でミスが出始め、そのミスを逆速攻につながってしまいました。

その後、盛り返し1点差まで詰めました。結局負けてしまいました。

今大会、1点差で泣く試合が2試合もありましたが、どちらの試合も要所でミスが目立ち、どこかで一本なかったら、もしくは、1点取っていればというものがありません。

フランス戦の前半、北朝鮮の後半はじめのように、消極的になった時ほどミスは出るものです。今後、一人一人がいかに強気で攻撃

できるかというのも一つの課題だと思つるとともに、体格的に差のある者に対してどう攻めるか、守るかというのも問題になってくると思っています。

次のアジア大会に向け、スピードのある、韓国、北朝鮮、体格の大きい中国、この国にどう勝負するか。この大会で見えたいいくつかの問題点であるパワー的なもの、精神的なものをいかに克服できるかが、今後の課題になると思ひます。

選手
土師 基子

全日本初参加ということで、多少不安な点はありませんが、ヨーロッパなどの大きな外国人相手に試合をすることは初めてではないので、それなりの対処方法はわかっているつもりでした。

ハンガリーでの初戦の練習ゲームでは、私たちナショナルチームが出さなければいけない速攻を逆にやられてしまい、戸惑いや不安などでたぐさんの反省ばかりが出てしまいました。

ただ相手が大きいかからとか、パワーが違いすぎるからとかで負けたとは思っていませんが、やはりまだ怖さがある、自分の持ち味であるスピードプレーやフェイントが出し切れなかったことがとても残念でした。

ハンガリーの時よりもディフェンスも良く、攻撃もスピードにのってそれなりに得点し、いいゲームができたと思ひますが、ミスの多さはあまり変わらないような気がしました。

現地に來てからの反省点が多すぎて、新しく考えたフォーメーションやディフェンス方法、メンバーの変化などで戸惑う場面がいくつかありましたが、イメージトレーニングや話し合いで気持ちを高めていきました。

試合前のアップ時間も短時間なので、自分自身で身体を動かせる状態にもつていくことも結構難しかったです。

リトアニアに現地入りし、本大会最初の試合(イタリア戦)ということでみんな気合いも入り、危なげなく全日本の圧勝に終わりました。

次からの試合もその調子でスムーズに展開できれば問題ないのですが、やはり世界の壁は高く厚いもので、簡単に勝たせてくれませんでした。

結局Aグループ5位という結果に終わり、目標であった決勝リーグには出られませんでした。本大会を終えいろいろな反省点、これからの課題を教えてくれたと思ひます。

6試合を終えて、全体を通して言えることは、前半の得点力が低すぎると思ひました。勝てると思

っていたフランスに前半6点しか取れず、後半の追い上げも一歩及ばず1点差で負けてしまいました。他の試合を振り返っても、前半に点差が開きすぎて、後半、苦しいゲーム展開になっていました。

セットでの攻撃力が弱い、速攻をつぶされるとミスが目立ち逆速攻にもつていかれるケースが多すぎたと思ひます。

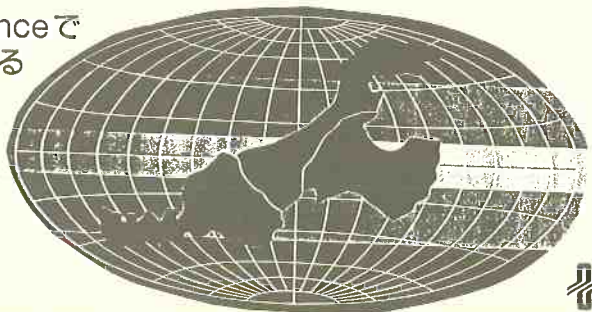
スピードは他国と比べてもさほど劣ってはいませんが、やはり高さやパワーの違いについていけなかったように思ひました。

ディフェンス練習を強化していたけど、つめのあまさ、ポストの置き方がまだまだ不十分だったと思ひます。ディフェンスが良ければ得点に結びついていたことは事実で、予選リーグ最終戦のチェコ戦では、得点は低かったものの、粘り強い守りで相手の攻撃を封じ、2点差で勝ちました。やればできる」と自信はつきましたが、最初の試合からこの粘りを出せなかったことが一番残念です。

日本では通用していたカットインプレーやフェイントも全くいっていないほど効かず、自分自身落ち込んだ面もありましたが、これからの課題として頑張っていくと思ひます。

結果的には10位に終わりましたが、いい体験ができて良かったと思ひました。

Power & Intelligenceで
ゆたかな活力あふれる
北陸を



北陸電力

団長 須藤健児

略称名〓オランダ・カップと言
い、各国のナショナル・クラスの
チームが参加する。

参加国〓日本、オランダ、ベル
ギー、スイス、オーストリア、ノ
ルウェーの6か国。

期間〓11月19日、夜、品川プリ
ンスホテルに全員集合。12月1日、
10時、成田空港で全員けがなく無
事解散する。

人員〓団長1、監督1、コーチ
2、ただし独留留学中の田口コー
チは現地で合流。医師1、計5名
のスタッフ。選手は16名。

宿舎〓ハーレム市郊外、モート
ル・アーカスロット。広大な敷地、
自然の美しい郊外の村といった感
じで、畑や牧場や水路に囲まれ
ている。モートルと言っても、木
調とレンガ作りの重厚な感じのす
る木造三階建てのホテルであり、
暖房もよくきいた快適な住居であ
る。広さも日本と比べてかなり広
い。

試合場、練習場〓いずれも似た
り寄ったりの体育館で大体育館で
はなく、観客との距離も接近して
いて、親しみやすい雰囲気をかも
し出している。天井もそんなに高
くなく、暖房も適度にきいており
快適である。

対戦結果は左の通りである。
11月23日、21時30分 デン・ヘル

ター町にて☆練習試合
対オランダ 17―20×

対ノルウェー 18―26×

対スイス 26―29×

11月27日、21時30分、
対オーストリア 22―27×

11月28日、20時、
対オランダ 17―15○

11月29日、13時30分、
対ベルギー 19―19△

1勝1分3敗、参加6か国中4
位である。

試合感想〓試合運び、戦法戦略、
戦績結果等に関しては監督、コー
チの領域であるので論評は差し控
えたい。しかし、外国ナショナル
クラスの選手は、2m、1.9mの
身長で、肩巾や胸巾の厚い大型選
手を相手に、防禦面では体を張っ
て、とめる、当たる、激しさ、遅
しさが無いとけがをさせられる。
攻撃面では素早い腕の振り、しな
る、たわむような腕の振りのシュ
ートが要求される。高い打点での
シュート、パワーだけのシュート
ではもたないのではないか。そん
な状況のなかで、今大会のMVP
賞を獲得したのは日本の末岡政広
選手で、彼は1・76m、74kgであ
る。

人物寸評〓蒲生監督・ハンドボ
ールに対する哲学、理念を持ち、
寸分の隙にも厳しい注文を付ける
強烈なリーダーシップに富む逸材
である。関コーチ…万事控え目で
地味な存在であるが、実によく監
督を支え王佐之才に富む。選手を
見詰める観察眼は鋭く、その一言
に重味がある。田口コーチ…ハン
ドボールの祖国と言われる独留に
留学するだけあってなかなかの理
論家。時折り口から出る独留語に
もその片鱗が伺われる。大場医師
…膝関節等、下肢の関節を専門と
する整形外科医である。ドクター
が遠征に付添ってくれるだけで選
手はどれだけ安心感を持つたであ
らうか。選手の兄貴的存在として
彼らの相談に快く応じていたのが
印象的である。

大会運営〓開閉会式、監督主持
会議、レセプション等々、一口で
言えば質素で、簡単に実素早く
1時間以内で終了する。日本も見
習う点があるように思う。しかし、
その中であって、日本のハンドボ
ールを参加国に強く印象づけたこ
とは見逃せない事実である。

生活面〓添乗員も日本語通訳も
いない中で蒲生監督の国際経験豊
かな中で、我々一行は何ひとつ不
自由なく生活できた。試合の合
間に、半日、アムステルダム首都
を見学できたのも、スパーマー
ケットに生活用品を買いに行けたの
も監督、コーチの配慮である。御
陰で市民生活の一端を垣間見るこ
とができた。

最後〓出発の朝は、中沢専務理
事の激励と見送りを受け、帰国の
朝は、植村常務理事の慰労と出迎
えを受け、協会あげての支援に深
く感謝申し上げて、この報告を擱
筆する。選手諸君ノ帰途、飛行機
での課題作文御苦勞様。

監督 蒲生清明

1、はじめに
今回の遠征に出発するにあたり、
日本協会関係の皆様・各選手所属
の関係の方々には、大変なご支援
・ご協力・ご厚情をいただきました
。誠にありがとうございました。
選手達も遠征の回を重ねることに
成果を出し、その成長は顕著であ
ります。毎回のことではありません
が、以下簡単に遠征の報告をいた
します。

2、今回の目的および現状等につ
いて
H A A R L E M E S E H A N
D B A L L W E E K は、毎年11
月に実施され、今年で回を重ねる
こと8回になり、ヨーロッパにお
いても、注目されるトーナメント
になっている。日本としては、3
年前に初参加したが、出場各国に
対して内容のあるゲームを展開し
善戦した経験があった。また、本
年3月には世界選手権大会Bグル
ープの直前トレーニングとしてオ
ランダナショナルチームと3ゲー
ムをさせていたのだが、全くと
言っていないほど歯が立たず大敗し
た。けれども、そう言った意味で
は、オランダにはいろいろと世話

3、ゲーム結果
別表参照

4、成果・内容等について
(1)時差対策について
海外遠征の場合、通常は現地到着
の次の日にゲームが組まれている
ことが多く、結果として、満足
が行かないまま日程が過ぎること
があった。今回はゲーム5日前に
現地に入り、短時間ハードトレ

ニングと充分な休養を取ることを実施した。その結果、時差によるコンディション調整は、良好でまずまずであった。ゲームについても、時差からの影響と考えられるものもなく、体調を崩すものもなかった。

(2) 成果・内容・課題について

オランダに到着後4日目にオランダナショナルチームとトレーニングゲームを実施したが、前半の立上りが悪く、6-13と思わぬアヘッドをしてしまった。これについては、3月の後遺症が残っていたように思われる。後半に入り、選手達がペースをつかみ、そして後半25分には、途中8点差まで開かれていたこの差を1点差まで追いつき、途中のアヘッドが大きすぎ勝てなかった。

ハーレムスハンドボールウィークは、オランダに到着後6日目に始まったが、この頃には、チームとして充分に対戦できる準備が整っていた。初戦はノルウェーであったが、後半途中に2点差まで追いついて、勝つチャンスは充分あったが、勝ち越すためのエネルギーが欠けていた。スイス・オーストリアについても同じペースで、前半スタートのゲーム運びについて、大きな課題が出てきた。けれども、後半になって、あそこまで追い上げができるようになったことは、評価していると思う。今後は、試合

前の準備と、試合を通してムラをなくしていくことが大切であると考える。

4日目にオランダと対戦。トレーニングゲームでは、惜敗をしているので、選手達も気合いの入っている様子が良くわかった。ゲームがはじまり、ディフェンスからの速攻が出てスタートからリード。途中連続得点され、前半は2点差でリードを許した。後半に入り、4連続得点で2点のリードをしたが、この間GK橋本の堅守とディフェンスの頑張りでオランダを15分間無得点に押し寄せた。勝負所でのこのディフェンスが成功し、そのままオランダに勝つことができた。次の日のゲームは、ベルギーであったが、着実に成長をしているチームで、各国とも敗れてはいるものの良い内容であった。日本としても、侮れない相手である。結果として、引分けになったわけだが、後半13-18から追い上げての引分けであり、内容的には、満足のいくものではなかった。

今回は、連日ゲームがあり、精神的なスタミナと肉体的なスタミナの両方をコントロールしなればならなかったが、両面についてまだまだ不十分であることが判明した。

逆に言えることは、スタミナの面を強化することにより、充分勝負できることが可能になると言うことで、今後各選手の日々の鍛練

・努力に期待したい。

大会の最終日に、表彰式があったが、最優秀選手に末岡政広選手が選ばれた。世界でもAランクのチームになる国と対戦し、選ばれたことは、本人にとっても日本にとっても感激である。大会期間中の末岡政広選手は、縦横無尽にプレーをし、そのスピード&テクニクは、各国の監督・大会関係者に驚異を与えた。ましてや、彼等の投票で選ばれたことが大変嬉しい。

5、おわりに

今回は、高校体育連盟の須藤部長先生に団長としてお願いいただき、ゲームに臨む心得や全日本選手としていかにあるべきかなどご教授を受けて、我々も身に染みる思いでした。我々には、常に勝つことが求められ、そのためにはいろいろな面から、特に内面からの強化が大切である」と言うことを、先生から教えていただきました。

このことを今後の強化に生かして行き、日本のハンドボールファンに愛され、可愛がられる選手、強く逞しい選手を育てていくことが最終的には、アジアNo.1になる道だと確認しました。

本年度は93年3月まで全日本活動は、一休みになりますが、各選手の今後の精進を期待し、また、関係方々の益々のご支援ご教授を願ひして、報告とします。

HAARLEMES HANDBALL WEEK 1992 RESULT

オランダ遠征成績

	第1試合		第2試合		第3試合	
11/25	JPN18	[9-14] 26NOR [9-12]	HOL19	[9-17] 25AUT [10-8]	BEL21	[9-14] 28SUI [12-14]
11/26	JPN26	[13-15] 29SUI [13-14]	HOL21	[6-9] 20BEL [15-11]	AUT24	[11-9] 15NOR [13-6]
11/27	JPN22	[12-19] 27AUT [10-8]	BEL17	[6-13] 21NOR [11-8]	HOL23	[12-12] 27SUI [11-15]
11/28	JPN17	[9-10] 15HOL [8-5]	AUT22	[11-12] 19BEL [11-7]	NOR27	[13-8] 16SUI [14-8]
11/29	JPN19	[8-10] 19BEL [11-9]	SUI21	[10-8] 20AUT [11-12]	HOL20	[8-11] 22NOR [12-11]

HAARLEMES HANDBALL WEEK 1992 最優秀選手 末岡政広

勝敗表

	AUT	NOR	SUI	JPN	HOL	BEL	勝敗	POINT	得失点差	順位	
AUTオーストリア	○	○24-15	●20-21	○27-22	○25-19	○22-19	4勝1敗	8	+22	118-96	1
NORノルウェー	●15-24	○	○27-16	○26-18	○22-20	○21-17	4勝1敗	8	+16	111-95	2
SUISUIS	○21-20	●16-27	○	○27-23	○28-21	○28-21	4勝1敗	8	+4	121-117	3
JPN日本	●22-27	●18-26	●26-29	○	○17-15	△19-19	1勝3敗1分	3	-14	102-116	4
HOLオランダ	●19-25	●20-22	●23-27	●15-17	○	○21-20	1勝4敗	2	-13	98-111	5
BELベルギー	●19-22	●17-21	●21-28	△19-19	●20-21	○	3敗1分	1	-15	96-111	6

大体大(男子)、日体大(女子)に栄冠

全日本学生ハンドボール選手権大会は11月10日より15日までの6日間にわたり松山市総合コミュニティセンター及び愛媛県総合運動公園体育館において、男子32大学・女子16大学が参加し、予選トナメント・準決勝リーグ・順位決定戦方式で行われ、男子は大体大が5年振り4度目、女子は日体大が2年振り17回目のそれぞれ優勝を飾った。

高橋(川口北)の好リードで國士大を追いつめた日大、筑波大に今一步の処で交わされた桃山学大などの健闘が目についた。

予選トナメントは、組み合わせの結果、男女共にシード校が順当に勝ち上がるのではないかと下の馬評であったが、男子で、第2シードの中部大と第4シードの中大が敗退という波乱があった。女子は順当であった。

準決勝リーグ初日の早大―大経大戦は、大教大が、谷村(此花)・新人田中(育英)で開始10分には7―3とリードしたが、17分には平田(熊本市商)のロングで追いついた早大は、後半に入って岩本(熊本市商)・世界学生代表・全日本)の5連続得点などで一気に突き放し、最後は延命(早大学院)が決めて楽勝。

中部大は、法大に先行しながら、後半に入りシュートミスが目立ち、逆転負けを喫した。大教大は鈴木(桜台)の活躍で中大を破った勢いで名城大も連破して勝ち上がった。

法大―國士大戦は、國士大が田中(横浜商工)の巧技で先手を取ったが、法大が前半の終了間際に逆転、その後も加点し9点差まで行ったが、19分から無得点が続き、その間木浪(青森商)・世界学生代表)・小俣(上溝南)の4連続で追い上げる國士大を破った。

インカレ四連覇をかけた日体大は、富本・小澤(共に世界学生代表)・全日本)を擁して福岡大と対戦したが、秋季リーグ後半からの不振から立ち直れずに敗退した。この他、早大に善戦した函館大、

筑波大―福岡大戦は、福岡大が清水亮(久工大附)、米倉(瓊浦)の活躍で前半を同点で折り返したが、後半に入ると、筑波大が鎌田(天草)・世界学生代表)・益崎(熊本市商)などの連続得点で優位に立ち、振りきった。

大が開始早々に、平田・五島(明星)・岩本で連取し、12分には8―2とリードした。しかし19分過ぎから攻守両面で凡ミスが目立ち、その間に、荻本(大分電波)の速攻、小俣の回り込みで國士大に追い上げられた。後半は1点を争う好ゲームとなり、このままでは引き分けかと思われた終了間際のセット崩れから、市原(桃山学院)がサイドから決めて辛勝。

生代表)、山内(岡崎城西)、森本(北陽)・世界学生代表)などで多彩に攻め逆転、さらに山内のミドル、松村(桂)の速攻で突き放して、決勝戦進出を決めた。なお、筑波大にとっては勝負どころも合わせ合計10名の退場者が出たことは不運というしかなかった。

3日目の早大―法大戦は、法大が春秋リーグで早大に勝っており、20年ぶりに決勝戦へコマを進めるか注目されたが、早大は堅実なプレーで法大を下して、決勝戦へ進出した。

この結果、3位決定戦は法大―筑波大、優勝決定戦は早大―大体大の組み合わせとなった。

筑波大―大体大戦は、筑波大が新人広政(下松工)・世界学生代表)の右45度のミドルで先制したが、大体大もすぐ村上(北陽)で返し、その後も1点ずつ交互に取り合う展開で進み、前半は筑波大が12―11の1点リードで終了した。

3位決定戦は、筑波大が開始34秒に広政が決めてから9連続得点するなどして、その後も変わらぬ攻めで大勝した。

後半に入り筑波大が鎌田のミドル、藤本(東邦)のカットインで15分には19―15とリードして、ベイスに乗ったと思われたが、16分21分、23分と退場者が続き、この間に大体大が松原(育英)・世界学

後半の出だしは早大ペースで進み8分には18―15になったが、この直後に退場が出たことと岩本のロング、五島のミドル、中野のポストの各シュートを大体大GK四方(北陽)が好捕して早大を10分

くらし、ひろげるジャスコのカード

会員募集中

ファッションから食品まで
サインひとつでお買物。

ご入会手続きも簡単です。
お気軽にお申込み
ください。



- お支払いもいろいろ
- 月々のお支払いがラクなリボルビング払い
- 手数料なしのおトクな一回払い
- お求めはいま、お支払いはボーナス一括払い

お申し込み、お問い合わせは、ジャスコ各店サービスカウンター又は、販売員におたずねください。



開無得点に抑える間に、森本の3点を含め5連続得点で逆転してそのままの勢いを守り優勝した。

スピードのある多彩で何処からでも点の取れる大体大と、高さもパワフルな早大と持ち味を出し合っただけで好ゲームを展開したが、サイド攻撃の幅の有無が明暗を分けたと言える。

女子は、予選トーナメントで、東日本学生1位の東女体大と関西リーグで武庫川女大に1点差で敗れた大体大戦が注目を集めたが、飯田(名短大附)の好リードで東女体大が、前半で勝負を決め、他のシード校と共に順当に勝ち上がった。

準決勝リーグで、1日目の筑波大―福岡大、2日目の東女体大―筑波大、3日目の日体大―武庫川女大戦で見応えのある試合が展開された。

筑波大―福岡大戦では、前半で14―5と大差をつけられた福岡大が、富松(佐賀関)の活躍で後半25分には19―18と1点差に迫り上げ、筑波大をあわやというところまで追んだが、勝負を捨てない粘りが光った。

第1シードの東女体大と筑波大戦は、接戦が予想されたが、東女体大にいつもの動きがなく、前半はタイであったが、後半は筑波大の大型新人小谷内(水海道二)・稲次(宣真)が決めて主導権を握り、守っては飯田の動きを封じて28―

20で勝った。

日体大―武女大戦は、日体大が山田(東海女)のカットイン、桐谷(佼成女)のステップなどでコンスタントに加点し、前半をリードしたが、後半は武女大が日体大の可剣萍(元中国代表)を早目のチェックで守りを固め西村(四天王寺・全日本)のロングで追い上げて17分には逆転、23分には大林(夙川)が決めて23―20として優位に立った。しかし、25分過ぎから急に動きが鈍り25分、26分半に可が決めた1点差、武庫川女大に退場が出た直後の29分20秒に、敗色濃かった日体大の望みをつなぐ可のシュートが決まり同点。この折り返しの武庫川女大の攻撃で可の好守備がチャージの反則を誘い、山田が素早くポイントに立ち新井(國學院栃木)につないだ速攻で残り13秒に勝ち越した。

なお、残り少ない時間の中で素早く処理し速攻につなげた山田と、後がない時間のプレッシャーの中で落着いて決めた新井のプレーは賞賛に値するものであった。

3位決定戦は、関東の一角を食おうとする気迫の見たれた武庫川女大が、開始5分過ぎから終始先手を取って勝った。

決勝戦は、日体大が開始40秒に桐谷のステップで先制。その後も1点差で先行する展開で、前半は12―10で日体大がリードして折り返しに入った。

後半は、立ち上りに筑波大が稲次、野村(三井)で3連続得点で逆転。しかし日体大も11分に稲次からの巧投で再逆転。その後、筑波大が西田(小松市女)のポストなどで追ったが、18分半に稲次で17点目を取った後、日体大のゴールを割れず、その間に、福西のポスト、桐谷のミドル、可のカットインなどで5連続得点して22―17で優勝を手中にした。

大会を振り返って見ると男子は地域格差がせばまっていることが強く感じられた。女子は、上位8校のレベルアップが顕著であり総合選手権での活躍の期待が持てた。なお、男女共に優秀選手と遜色のない活躍を見せた好選手を本文に記載した。

男子

1回戦

2回戦

早稲田大 27	19	8	11	20	近畿大	福岡大 32	15	17	8
函館大 26	16	10	10	18	中京大	大阪教育大 26	12	14	11
東海大 29	16	13	10	20	東和	名城大 32	20	12	11
大阪経済大 29	16	13	14	26	国際武道大	大阪体育大 45	26	19	3
国士館大 33	12	21	7	13	福岡教育大	早稲田大 26	14	12	10
日本大 21	12	9	9	13	京都産業大	早稲田大 26	14	12	11
法政大 27	15	12	10	18	同志社大	大阪経済大 28	13	15	11
中部大 40	22	18	10	19	東北学院大	国士館大 23	14	9	11
筑波大 29	16	13	10	15	南山大	法政大 25	13	12	14
桃山学院大 42	24	18	8	20	新潟大	筑波大 24	12	12	10
日本体育大 40	20	17	7	15	仏教大	福岡大 29	15	14	11

スポーツマンのベストコンディションをお約束する、シャンピアホテル。



■料金(税込)
 シングルA.....7,980円
 シングルB.....8,180円
 ダブル.....13,900円
 ツイン.....13,590円



■料金(税込)
 シングル.....8,870円
 ダブル.....15,450円
 ツイン.....15,450円

シャンピアホテル名古屋

〒460 名古屋市中区錦2-20-5 代表 ☎052(203)5858
 ●交通 地下鉄東山線伏見駅より東へ徒歩5分
 地下鉄東山線栄駅より西へ徒歩8分 タクシーは名古屋駅より8分

シャンピアホテル大阪

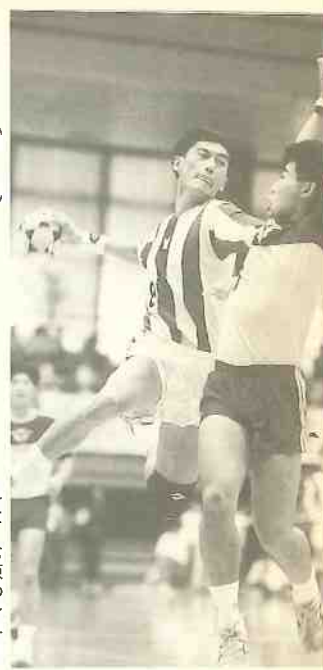
〒530 大阪市北区南扇町6-23 代表 ☎06(312)5151
 ●交通 新幹線新大阪駅からタクシーで10分
 大阪空港からタクシーで20分(阪神高速) 大阪駅から扇町まで徒歩12分

●設備のご案内 ●ミーティングルーム ●全自動洗濯機・乾燥機設置 ●VHSビデオ設置
 ●シャンピアホテル 赤坂 ●シャンピアホテル 青山 ●シャンピアホテル 防府 ●姉妹ホテル KOLON HOTEL 韓国・慶州(キョンジュ市) 東京事務所(03)3386-7571

大阪体育大 27	筑波大 34	大阪体育大 36	筑波大 26	大阪体育大 33
16 12 11 11	18 16 10 13	18 18 8 8	16 10 8 10	21 12 5 9
23 筑波大	23 大阪教育大	16 福岡大	18 福岡大	14 大阪教育大

国士館大 28	早稲田大 24	法政大 29	早稲田大 26	法政大 22	早稲田大 34
12 16 10 12	10 14 10 8	14 15 11 10	13 13 12 13	10 12 9 8	18 16 8 13
22 大阪経済大	18 法政大	21 大阪経済大	25 国士館大	17 国士館大	21 大阪経済大

大阪教育大 27	大阪体育大 26
11 16 11 15	15 11 10 7
26 名城大	17 順天堂大



早大・市原のシュート



日体大・新井のシュート

筑波大 41	中京女大 39	東京女子体育大 28
23 18 4 6	21 18 9 7	12 16 11 7
10 冲縄国際大	16 仁愛女短大	18 大阪体育大

筑波大 26	福岡大 35
11 15 7 8	19 16 13 12
15 法政大	25 大阪教育大

筑波大 26
11 15 7 8
15 法政大

福岡大 22	筑波大 28	筑波大 21	東京女子体育大 28
13 9 10 7	16 12 8 12	7 14 14 5	15 13 7 13
17 中京女大	20 体育大	19 福岡大	20 中京女大

武庫川女子大 53	福岡教育大 20	日本女子体育大 42	日本体育大 32	福岡大 33
26 27 1 6	11 9 8 7	22 20 3 2	19 13 7 12	19 14 5 9
7 北海道女子短大	15 東海大	5 広島大	19 中京大	14 東北福祉大

大阪体育大 25
12 13 8 13
21 早稲田大

得0018002712000	大	大阪体育大 25
荒大中岩延石五平市江片阿	早	21 早稲田大

得(日体大)00445200001	GK	筑波大 22
久安山可桐福新冲土小增村	FP	10 12 7 10
22	番・徳光前安	17 筑波大

得000140110820	筑波大	17 筑波大
藤前手田村田田前田次内平	大	10 12 7 10
22	20 中京女大	21 日本女子体育大

日本体育大 22	武庫川女子大 26	日本女子体育大 28	日本体育大 24	武庫川女子大 29	日本体育大 24	武庫川女子大 22	日本体育大 30
10 12 7 10	12 14 11 10	17 11 10 13	11 13 14 9	13 16 4 6	10 14 10 9	12 10 11 8	18 12 9 11
17 筑波大	21 日本女子体育大	23 福岡教育大	23 武庫川女子大	10 福岡教育大	19 日本女子体育大	19 日本女子体育大	20 福岡教育大

筑波大 34	東京女子体育大 29
18 16 10 8	14 15 10 11
18 中京女大	21 福岡大

駅前 モンブランホテル

〒450 名古屋市中区区名駅3-14-1
JR名古屋駅表玄関より徒歩2分
東洋ビル(東洋信託銀行、日本航空)隣
☎052-541-1121
FAX052-541-1140

伏見 モンブランホテル

〒460 名古屋市中区栄二丁目2番26号
地下鉄伏見5番出口(科学館方面出口)
徒歩2分(御園座東)
☎052-232-1121
FAX052-204-0256

第12回世界学生選手権大会報告

中沢 重夫

第12回世界学生ハンドボール選手権大会は、近年特に世情の関心の高いロシアのベテルブルグ（旧レニングラード）で開催された。

世界の日はロシア国内の事情を見通してか、エントリーは15か国、しかし参加は7か国にとどまった。これに参加する日本代表選手団は、去る12月6日成田発JAL441便でモスクワへ、モスクワから夜行寝台でベテルブルクへ向い、翌朝同市到着。成田からおよそ26時間余の長い旅。学生たちもロシアという未知な、しかも数々の困難を予想された旅であるだけに、自分の目で世界を見る貴重な経験であったと思う。

大会での成績は結果として最下位。あまり芳しいものとはいえないが、今回も非常に多くの宿題をもって、12月22日JAL440便で全員揃って帰国した。以下、順に今回の参加に関する大要を追ってみる。

準備

①強化合宿

松井監督、松コーチの担当で検討、計画をなされたが、強化合宿が他の国内スケジュールに追われ2回の合宿と大会直前現地（ロシア）での調整トレーニングの計3回にとどまってしまい、コーチン

グスタフも、選手も一番悔いの残るものになったと思う。

いかにもしがたい過密な国内スケジュール。ナショナルをはじめ心ある人は皆、指摘することながら、今回の大会参加も万全な準備ができた状態といえなかったのではないかと大変残念に思う。

②総務、渉外事務処理

綿貫理事が、この大会参加の事務処理を一手に引き受け処理した。事前は大変苦慮した通り、ロシア国内の事情もあることと思うが大会組織委員との連絡がほとんどつかない。そのため毎回のことながら全日本学連会長（米倉功会長・伊藤忠商事会長）の配慮により同商事のロシア室のTLEXを窓口

に現地同社モスクワ事務所、ベテルブルク事務所の手を患わせ、大会組織委と連絡をとっていた。過去、ルーマニアの時もまったく同じ状態におかれたが、今回はもつとひどく、いかにロシアの国内事情の混乱を心配する要因ともな

った。この点、商社の世界のネットはすばらしいものがあると大変感心させられた。

ロシア国内の旅行、列車、バス、通訳等のすべての手配を伊藤忠商事の現地事務所がしてくださったことは、この大会参加の困難さを

心配しただけに、大会参加行程が円滑に進むことができ大変感謝申し上げる次第である。

ここで特に述べたいのは、チーム構成にマネージャー役員を加えることの必要性である。選手団個々への事前の連絡、参加手続き、旅行計画、持参品準備、旅行中、滞在中のすべての誘導、対外関係へ接触、そしてすべての会計、これらを一手に引き受け、なおかつロシア国内での食料事情を考え、携帯日本食を準備、この思慮に浴した者は多かった。綿貫理事のマネージャー役は特筆に値する。

③ドクター・帯同・渡辺健一医師

世界学生へのドクター帯同は初めてであるが、学生を預る我々役員にとってこれほど安心して大会参加ができたのは初めてであろう。今まで他の国は必ず同行しており、うらやましい限りであったが、自分たちで実際に経験すると、試合中コートでも即対応、病院へも同行、宿舎に帰っても目を離さない等々、絶対に帯同をお願いする必要を痛感した。

④帯同レフェリー／後藤・清水

両国際レフェリー
フランス大会以後毎回帯同レフェリーをお願いしてきたが、今回両レフェリーによって最後の詰め

を行っていたといえる。参加国皆が日本のレフェリーを評価している。後藤氏のオリンピック・レフェリーの存在も大きかったこともいえる。

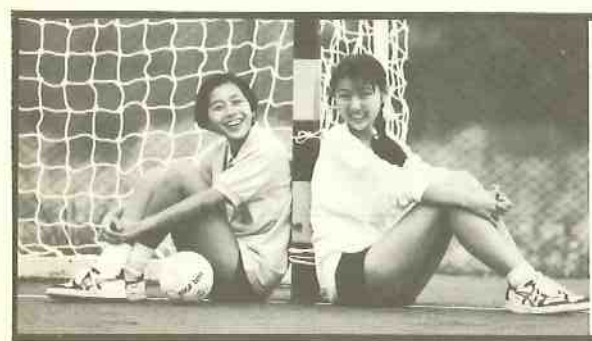
⑤その他

蒲生晴明ナショナル監督が視察同行。学生のコーチングスタッフにも心強さを感じたであろうし、選手たちも大きな励みになったと思う。次の日本のナショナルを目指す学生選手、いわゆるヒヨコたちの存在を蒲生監督がその目で確かめ、いかに指導して、明日の日本のハンドボールマンのエリート教育を施すかの資にして欲しいと思うものである。

今回で連続7回目の出場となり、ファイナルセレモニーで、日本チームがテクニク賞、そして松井監督が指導賞（教育賞）の表彰を受けたこと、技術的には相当高く評価されている。他の国の人は口を揃えて「日本はパワー（力）が足りない」という。その通りだと

思う。最後に、世界は東側から西側に風向きが変わり、それを顕著に表したのが、オーストリアがロシアを破り優勝、ハンガリーがルーマニアを破り3位に入ったことである。日本がこれらを肌で感じた大会となったことを述べたい。

また、この大会は次回（第13回）はトルコで1994年12月20日、30日に開催すると発表された。



放課後の負けん気。

放課後になると、わたしのなかにわむっていた元気が目をさます。ボールをもつと、わたしのなかにかかっていた勝ち気がスックと背すじをのぼす。シュートを決めるとき、わたしのなかの負けん気がパチパチとスパークする。わたしはこんな自分が大好きなのです。負けん気をありがとう、モルテン。

株式会社 **モルテン molten**
東京本社 東京都墨田区横川5丁目5-7 電話03-625-7581代
大阪 大阪名古屋・福岡・広島・仙台・札幌・リノUSA・デュッセルドルフW.G.

県協会だより

宮城県ハンドボール協会

宮城県ハンドボール協会は、昭和23年6月に発足しました。

当時、ハンドボールという競技を知る人はほとんどない時代で、学生時代東京でプレーをした方々が発起人となり、当時の日本協会高嶋理事長を仙台に招き、講習を受けて協会を設立してから早いもので45年の歳月が過ぎました。

その間、国際大会、インターハイ、インカレ、そして日本リーグ等のビッグ大会を開催してまいりました。昭和53年第1回全国高校選抜大会の優勝校、涌谷高校を指導した山崎金夫氏、そして平成2年、インターハイ、福岡国体と制した聖和学園高校の森順一氏をはじめ多くの優秀な指導者のもと、現在一般13チーム、大学8チーム、高専2チーム、高校48チーム、そして中学校15チームが日本協会に登録をしております。

協会組織として、一般、大学、高校、中学の各部門からなる理事会、総務、強化、審判、競技の4部門、その他財務委員会を設置し、年間の協会運営に当たっております。平成4年度は隣県・山形でべにばな国体が開催されました。当県

でも全種別の出場を目標としてミニ国体(東北総合体育大会)に臨みましたが、残念ながら3種別の出場となり、本大会でも上位進出はできませんでした。

現在、当県の東北ブロックのレベルは、中学校は2、3番手、高校女子、一般男子・女子は上位ではありますが、高校男子のレベルダウンが著しいので、今後重点強化を図らねばと考えております。

審判部は、審判講習会等により上級審判員養成を年次計画に取り入れており、また、新規D級取得者の増員を積極的に働きかけをしております。

強化、競技部は、前述した通り高校男子のレベルアップ、そして特にジュニア層の普及、強化を考へ、今年度は(財)宮城県体育協会のご好意により(財)日本体育協会の事業である、都道府県研修記録事業を企画させていただきました。12月16日から4日間、県高体連指定選手男女30名および各高校推薦選手計70名の参加を得て、強化技術指導を計画しております。

なお、ジュニア(中学校)強化に際しても県体協よりの補助事業

として1泊2日の基礎強化講習会を中央球界より講師を招き12月に行うこととしております。

平成7年には福島県で国体が開催されます。中期計画の核として福島国体での活躍を期し、隣県あるいは関東遠征等も計画しております。そして、平成13年には当地宮城県での国体も計画されております。

長期展望として、現在、小学校およびスポーツ少年団での普及が皆無であり、早急に手を打たなければならぬ現状と認識していま

県協会だより

長野県ハンドボール協会

今回日本ハンドボール協会から機関誌の協会だよりの原稿依頼を受け掲載の機会を得ましたことに感謝を申し上げます。

長野県ハンドボール協会は、昭和24年に油井孝一郎氏により佐久の地に産声をあげ、創立45年を経過し現在に至るわけですが、その間昭和39年8月、第15回全国高等学校総合体育大会を上田市で開催、また、日本リーグも昭和52年更埴市で開催、その後、佐久市で2回開催、そして昭和62年には、東日本学生ハンドボール選手権大会を、更埴市、上田市、戸倉町で開催するなど本県ハンドボール競技発展

ればならない現状と認識しています。しかし、協会が抱える問題点多々あり、指導者の高齢化、そしてハンドボール分野の教員不足として財源不足等があります。今後、県ハンドボール協会の活性化のため、役員一同努力をし、そして充実、発展のため関係各位の絶大なるご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。宮城県協会の平成4年度の活動報告といたしま

(文責・千田)

の一助になっている。

その間、昭和53年「やまびこ国体」が本県で開催され、総合優勝を成し遂げた快挙が思い出される。登録人数も少なく、大学選手はもとより実業団チームもなく、全選手が地元出身で固めた成年男女、そして少年男女。今にして思えばよくぞ優勝したと回想しつつ協会に参画された諸先輩に心より敬意を表したい。

現在の登録チーム数は、成年男子6、女子5、大学男子2、女子2、高校男子16、女子13、中学生5、女子5、合計54チームであり、過去には奇数総体、国体等

上位進出も度々あったが、ここ十数年は思うような成績を残して得ないことは残念なことである。

しかし、その中であって特筆すべきことは、昭和63年北海道で開催された教職員大会で準優勝となり、全日本総合選手権大会の出場権を獲得したことであり、近年にない成果として記憶にとどめたい出来事であった。

また、今年度(平成4年)全国高等学校総合体育大会に於いて、屋代高校女子が、3回戦まで進出ベスト16はここ数年ないことであり、喜ばしいことでした。中学校での経験者もいなくこつこつと努力した成果であり、彼女らの今後の人生に大きな自信を与えることだろう。

民間の事業としては、昭和62年、上田高校、63年、屋代高校が、日中友好青少年交流大会に参加した。これは両国親善の為に有意義なことであり、スポーツを通しての交流は機会があれば、今後ほとんどん行いたいものである。

底辺拡大を唱えて数年が経過しているが、前述のごとく中学校のチーム数は少ない。しかし意欲的な指導者があり、今後に期待することが大である。本県は4地域に分かれており、中学校のチーム所在地には、高校チームが少なく、また、高校チームの近在には中学校のチームがなく、中学校での経験者が高校で続けることが困難な

状態であり、誠に残念なことである。この問題を解決すれば相当大きな成果を上げ得ることは目に見えているので、今後この点を関係当局に強力に働きかけていく所存である。また、反面、生徒減にともない指導者の採用もままならず、組織の充実に苦慮している現状でもある。

① 中学校、高校の一貫した指導体制の確立。

② 競技人口の増大の為、高校登録チームOB、OGチーム結成の働きかけと物心両面にわたる協力体制の確立。

県協会だより

山口県ハンドボール協会

本県ハンドボールの発足は、昭和22年、藤田信義・元山口大学教授により始まり、昭和23年3月に星井、柳井が徳山高、下松工高に着任後、同年5月に協会が設立されました。協会発足後45年が経過し、この間、会長5代目、理事長6代目と引き続いて来しました。この間、イベントとして、全中大会2回、高校総体2回、全日本実業

③ 地元の大学チームの（ヘルアップへの全面的な協力。
④ 中央よりの指導者による技術指導研修会（審判講習も含む）の実施。

が急務であると考えています。

本県は今、1998年の冬季オリンピックに向け、長野自動車道、上信越自動車道、北陸新幹線等の整備が急ピッチで行われています。これらが開通すれば地理的条件もぐつと良くなり、競技関係の発展に大きな福音となろうと思われま

す。
終わりにあたり、日本協会ならびに皆様方の今後のご支援をお願い申し上げます。拙文の筆を置かせていただきます。

団トーナメント2回、全日本総合2回、国民体育大会1回、全日本学生1回、その他国際試合、日本リーグ等数多くの大会をこなして参りました。

お陰様でその都度皆様からのアドバイス等により、ハンドボールの意識も高まり、現在のハンドボール山口の名をかかげることができています。

振り返り、指導者について見ますと、OBでは、藤田、星井、柳井、榎、故人の富樫、青木、横瀬、尾川、現役では、岡村久、藤井康、溝部、桑原、上村、松原、中野、増田、佐倉、山根、坂本、吉兼といった面々。選手としては、近藤、藤中、井藤等のオリンピック選手も出すことができました。

次に全国大会等の成績については、高校の部は、下関中央工高、岩国工高、下松工高の全国制覇回数は全国的にも立派と思えます。中学校においても、下松中、住吉中、岐陽中、美川中、玖珂中等の

全国大会での成績も決して他県に引けは取らないと思えます。特にこの中で、第18回国体の高校の部で、徳山高高等学校の男女アベック優勝は見事といえると思えます。この機を境に、山口県の中学校のチームができて来しました。また、この第18回国体からが、我が国のハンドボールが、11人制から、7人制へと変った記念の年でもあります。

以上が発足から現在迄の推移ですが、今後の問題として、いかに指導者の確保と育成に取り組むか（実技指導者含審判員、事務担当者）小学生チームの育成、後援団体の

態勢組織づくりと、卒業後のハンドボラーの競技への参加態勢づくりにあると思えます。
施設面については、本年9月、徳山市に総合スポーツセンターが

完成し、一フロア2面、廊下をはさんで1面、計3面のコートができ、さっそく県内大会を実施しています。今まで、体育館を使用する場合に移動に困っていました。この施設の完成によって好試合が次々と移動しないで続けて見れ、また、ハンドボラーの勉強にもなり幸せています。これを機会に近郷市町村にも一フロア2面の体育館建設を呼びかけ、大きいイベントを受け、勉強したいと思っています。

また、現在は山陽側中心での片寄った競技人口ですので、小学生対策と同時に山陰側の競技と組織の開発に全力を注ぎたいと思えます。

おわりに、やはり事をなすためには、関係者の総力が必要です。スタッフのみの力は知れています。OBから現役、また、教え子の子供が大学、高校と進学しています。これらの父、兄といかに取り組み、組織づくりをするかに力を入れていくところです。各中・高校の父母の会が結成されていますが、これらと連携を取り合い、大会等の応援・見学等の手をし、ハンドボールを好きになってもらうことと思えます。

OBとしての仕事はこれしかない、といったところですか……。
今後共いろいろなアドバイスをいただくよう、よろしくお願ひ致します。

合宿・国内外遠征から
ご家族の旅行まで
なんでも手配致します



明日の勝利の為に
私達が役立ちます

株式会社 エモック・エンタープライズ

〒105 東京都港区西新橋1-17-4 Y・Kビル1F

TEL : 03-3507-9777 FAX : 03-3507-9771

運輸大臣登録旅行代理店業 第6018

一般旅行業務取扱主任者 田川正明

財団法人日本ハンドボール協会の財務について

常務理事 山下 泉

バブル経済の崩壊により、不況が一段と進み、消費は落ち込み、各企業とも売り上げが低迷、収益は軒並みダウンを余儀なくされています。当協会のリーグに所属する企業や実業団の企業、また、納入取引業者も例外ではありません。そんな矢先の11月、突然JOCからの補助金(オリンピックキャンペーン関係)が約一千万円がカットされました、ハンドボールだけでなく他の競技団体も大幅なカットを受けました。景気後退の影響で広告費収入の減少が理由だそうです。いずれにしても当協会としては急遽、緊縮財政による予算の見直しを実施することとなりました。

今回のように年度の途中で状況が変わり、当初の事業計画や予算を実施することが不可能となった場合は、速やかに事業計画、予算の修正を図らざるを得ません。幸にも本年度の主たる行事は大半終了しており大きな変化はありません。しかしこれからの財政を考慮すると現状では、じり貧が目に見えています。

数は「別表1」のように増加しています。しかし、事務局の事務量の増加、複雑化で事務費が増加の傾向にあります。また、今後のハンドボール界の発展を考えると男女ナショナルチームの強化は絶対条件です。強化合宿、海外遠征を実施するには十分な財源が必要で、各方面から指摘されている当協会の国際感覚の欠如をなくするには、IHFA・AHFに積極的に役員を送り出し、経験と実績を積む必要があります。先般バルセロナ・オリンピックに島田、後藤両審判員が初出場し活躍されましたが日本ハンドボール協会は自信をもって積極的な活動をするのが、アトラクタへ向けて再出発する道だろうと思います。

当協会も安定的な財源確保のために、役員会の年費の新設、日本リーグの加盟金、登録金の見直しも考えなければならぬと思います。財団法人は企業のように売上げを伸ばして収益を確保することはできません。ハンドボール全員の協力のうえに運営される組織です。皆様のご理解をいただきます。日本ハンドボール協会の更なる発展を目指したいと存じます。

ここで財団法人について若干説明をさせていただきますと、公益法人の一つで、社団法人、学校法人、宗教法人等と同じく、民法34条により「公益に関する社団」又は財団は営利を目的とせざるもの」とし大蔵大臣の認可を受けて設立された法人です。目的、事業、資産、会計等については「寄付行為」にさだめられ、それによって事業を実施することになっています。特に財務に関しては事業予算に基づいて運営されます。次に日本ハンドボール協会の主たる収入と支出を記しますと別表2のようになります。皆様方のご理解を願う為に説明させていただきます。

先般、事務局で他の競技団体のいくつかの収入源を調査して見ました。登録金、日本リーグ加盟金、入会金、会費、賛助金等、それぞれ名目こそ違え、当協会と比較し企業チームの納付金は多額であり、一般的にも浅く各方面からの財源確保がされており、収入源は非常に安定し、羨ましさを感じました。

表2 財団法人日本ハンドボール協会の主たる収入と支出

収 入	支 出
1. 負担金 (加盟金)	1. 加盟金(IHF,AHF,体協)
2. 補助金 (JOC,日体協)	2. 事業費
3. 委託金等 (JOC,スポーツ振興基金等)	ア、人件費
4. 事業収入	イ、運営諸費
ア、登録金	ウ、旅費
イ、検定料	エ、賞杯費
ウ、審査料	オ、その他
エ、開催権料	3. 団体大会補助金
5. 寄付金	4. 普及事業費
6. 預金利息 (基金、繰越金)	5. 指導者育成事業費
	6. 審判事業費
	7. 競技力向上事業費
	8. 企画事業費
	9. 広報事業費
	10. 特別会計
	ア、委託事業
	(1) ナショナル強化合宿
	(2) 海外遠征
	イ、単独事業
	(1) 機関紙発行
	(2) 物品売上等
	(3) 外国チーム招待等
	(4) 海外遠征

表1 平成4年度登録数

	一般 A		一般 B		学 生		高 専		高 校		合 計		前年度比較		
	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	
登 録 数	男	357	5655	118	1627	219	3916	32	676	1466	31056				
	女	111	1711	6	89	85	1346	0	0	1070	18454				
	合計	468	7366	124	1716	305	5262	32	678	2536	49510	3464	64530	+59	+1979
前年度比較	男	+30	+607	+16	+233	+13	+382	±0	±0	-15	+72				
	女	+9	+209	-2	-8	+7	+162	±0	±0	+1	+320				
	合計	+39	+817	+14	+225	+20	+544	±0	±0	-14	+392	+59	+1979		

ドイツ・ハンドボールを学ぶ

田口 隆

今回私は、92年度JOC在外研修員として1年間ドイツにて、ハンドボールを研究するチャンスを得た。当初10月の中旬に日本を発つ計画でしたが、渡航手続等で1か月ほど遅れ、11月15日に日本を発ち、ドイツにやってきました。

私の研修先はケルン体育大学と、TSU Bayer Dormagen(クラブチーム)でトレーニング方法とハンドボールに対する理論的な考え方を学ぼうと思っています。あとヨーロッパで行われるイベントに参加し、各国の戦術面での分析もしたいと思っています。

今回のこの研修報告のお便りでは、まず私がお世話になっているTSU Bayer Dormagenについて述べたいと思います。

TSUとはスポーツクラブの意で、Bayerは、クラブのスポンサーで世界的に有名な大きな製薬会社の名前です。そしてDormagenというのがチームが在る地名であります。Dormagenは私が住んでいるKölnから約25km離れたところに在り、アウトバーンを使えば車で25分ほどのところ。このTSU Bayer Dormagenは全体で約4800名の

会員を持ち、いろいろなスポーツを行っています。そのうち330名ほどがハンドボールクラブに籍を置いています。

ハンドボールクラブの中には、ブンデスリーグの1部で活躍している一軍、そしてその下に二軍、三軍、四軍とがあり、あと18歳以下で2歳間隔にA、B、C、D、Eの5チームがあり、そして、その他に8歳以下のM13と呼ばれるチーム、年齢の高い人たちのチームと計11チームで構成されています。各チームにはそれぞれトレーナー(日本でいう監督)がいて指導にあたっています。ジュニアチームの中には力のある選手もいて、二軍、三軍に混じり、試合に出場することもあります。

私がトレーニングに参加している一軍には、トレーナー他にコーチとして、主にGKのトレーニングを担当する人がいます。選手としては、今年度は14名と契約が済まされ、そのうちには、今夏行われたバルセロナ・オリンピックに出場した、ドイツ代表Andreas Thiel、Michael Klemm、スウェーデン代表Robert Anderssonが含まれています。それ以外にもドイツ

のナショナルチーム経験者が5名います。

また、契約している14名の選手のうち5名は今年、他チームから移籍した選手で、ジュニア層からのクラブ内での強化はもちろんのこと、外部からの補強も積極的に行っているようです。

トレーニングは、月曜日から金曜日の夜に2時間ほど行われ、土曜日、そして水曜日に試合が行われます。

ホームでの試合では町をあげての応援があり、1400席ほどのシートが埋めつくされ、それに立見の人もたいへん多く見られ、体育館は日本の体育館程大きくはないにしろぎっしり超満員になります。ハーフタイムには、ホームチームの企画による楽しいアトラクションも行われ、観客席の盛り上がり方も日本にないものがあります。

クラブの概要は以上のようなものです。何分またドイツに来て間もない為、これから徐々に細かいところまで、勉強していきたいと思えます。1年という時間を今までも増して、大事に有意義なものにしていきたいものです。

バッヂ・メダル・優勝カップ・楯・看板
トロフィー・ネクタイ止・金銀製品・プラスチック製品

各種記念品

シマダ 記章株式会社

電話 東京(03)3973-0741(代)
東京都板橋区中丸町49-3

小松原	13 3	上尾東	川口東	28 6	筑波坂戸	川越南	10 8	花咲徳栄	16 7	富土見	庄和	9 2	秋草学園
▼同Kプロック	12 7	上尾東	浦和学院	11 10	川口工	浦和南	16 10	川口青陵	9 7	春日部	▼同fプロック	39 1	
越谷西	15 3	春日部東	▼2回戦	18 10	埼玉栄	上尾沼南	9 7	越谷西	16 11	岩槻	埼玉栄	24 2	幸手商
越谷南	17 8	越谷西	浦和実業	14 13	大宮南	久喜北陽	9 7	▼B2回戦	14 2	大宮	所沢北	6 5	幸手商
▼同Jプロック	17 6	浦和西	川口青陵	23 8	小松原	越谷西	11 10	春日部工	20 9	宮代	▼同eプロック	11 6	小松原
浦和実業	12 3	城西川越	▼決勝トーナメント1回戦	10 9	越谷南	花咲徳栄	11 9	川越南	11 9	三郷工	浦和南	16 0	大井
浦和実業	18 5	城西川越	筑波坂戸	19 7	浦和工	越谷西	11 6	▼B決勝トーナメント1回戦	11 6	羽生第一	▼同dプロック	16 9	大井
▼同Iプロック	22 14	草加東	▼同Tプロック	40 3	和光	浦和学院	8 2	7浦和実	5 5	川口青陵	川口青陵	18 12	草加南
川口青陵	20 13	草加東	▼同Sプロック	11 6	大宮北	川口東	20 12	農大三	14 10	川口北	▼同Cプロック	25 2	草加南
▼同Hプロック	15 5	大井	春日部	12 8	春日部	▼3位決定戦	14 10	▼5・6位決定戦	14 12	所沢北	▼同bプロック	11 4	浦和市立
農大三	17 2	大井	▼同Rプロック	10 9	春日部	川口青陵	14 10	西武台	14 12	所沢北	浦和西	11 10	朝霞
農大三	22 10	大井	川口工	14 8	上尾沼南	▼7・8位決定戦	11 9	▼7・8位決定戦	11 11	西武台	川口北	11 6	朝霞
▼同Gプロック	17 7	朝霞西	▼同Qプロック	13 3	大宮	川口北	11 9	▼予選リーグaブロック	15 6	浦和西	▼予選リーグaブロック	15 6	越谷西
埼玉栄	20 7	朝霞西	朝霞	7 3	城北埼玉	川口青陵	17 11	浦和学院	12 9	川口東	▼B決勝	14 5	岩槻北陵
宮代	11 3	朝霞西	▼同Pプロック	9 9	伊奈学園	浦和実業	16 14	浦和学院	16 7	川口北	▼B準決勝	19 10	春日部工
▼同Fプロック	22 2	春日部共栄	浦和市立	9 9	久喜北陽	農大三	10 7	農大三	10 7	所沢北	浦和西	11 9	春日部工
春日部共栄	10 6	春日部共栄	▼同Oプロック	8 6	八潮	浦和実業	16 0	浦和実業	15 9	川口青陵	岩槻北陵	13 5	上尾沼南
大宮南	21 10	春日部共栄	▼同Nプロック	16 4	八潮	浦和学院	22 2	浦和学院	22 2	西武台	浦和南	19 10	川越南
▼同Eプロック	20 8	北本	西武台	15 9	浦和南	浦和学院	15 9	浦和学院	15 9	西武台	岩槻北陵	11 9	春日部工
岩槻	17 10	北本	浦和南	19 9	八潮	川口東	16 7	川口青陵	16 7	所沢北	浦和西	13 5	上尾沼南
▼同Dプロック	12 3	志木	▼同Mプロック	12 5	上尾南	農大三	11 5	浦和市立	11 5	庄和	越谷西	14 6	久喜北陽
所沢緑ヶ丘	17 4	志木	三郷工	13 4	三郷工	川口北	13 5	農大三	13 5	浦和市立	▼B3回戦	31 6	和光
所沢緑ヶ丘	11 3	岩槻北陵	川口東	23 2	上尾南	所沢北	11 5	所沢北	11 5	朝霞	春日部工	11 9	伊奈学園
▼同Cプロック	10 8	川口	川口東	26 4	朝霞	浦和実業	13 8	浦和実業	13 8	所沢緑ヶ丘	浦和西	11 5	浦和工
羽生第一	10 8	川口	▼同Lプロック	11 10	県坂戸	川口青陵	26 4	川口青陵	26 4	所沢緑ヶ丘	岩槻北陵	1 5	浦和工



“人間の豊かさを求めるヒューマナイザー・中村荷役運輸グループ”。物流の一翼をにない、生活空間を豊かに、そしてよりよい社会環境づくりをめざして、これからも企業努力を続けていきます。



中村荷役運輸株式会社

港湾運送事業・港湾荷役事業・倉庫荷役業・通関業
 船舶代理店業・倉庫業・自動車運送取扱業・その他の関連業務
 ●本社：〒108 東京都港区芝浦2-3-39 TEL 03-3451-4161



おかげさまで
 創業74年

NAKAMURA STEVEDORES & TRANSPORTATION CO., LTD.

東海

第40回岐阜県高校総体

(8月15、16日/岐阜南高校)

男子

川口女	1	5	5	浦和学院
山口女	19	0	0	秋草学園
同gプロック	12	11	11	上尾南
大宮開成	12	11	11	上尾南
浦和学院	13	11	11	大宮開成
浦和学院	12	5	5	上尾南
同hプロック	23	5	5	本庄女
八潮	17	3	3	春日部女
八潮	23	5	5	春日部女
同iプロック	10	8	8	春日部女
伊奈学園	23	0	0	山村国際
伊奈学園	9	3	3	浦和商
浦和商	8	2	2	山村国際
同jプロック	21	2	2	大宮南
熊谷女	17	5	5	熊谷女
浦和実	8	1	1	大宮南
浦和実	17	5	5	熊谷女
同kプロック	27	3	3	春日部工
西武台	30	1	1	吹上
西武台	6	6	6	吹上
春日部工	13	2	2	大宮北
同lプロック	12	1	1	筑波坂戸
行田女	12	1	1	筑波坂戸
行田女	13	2	2	大宮北
筑波坂戸	12	3	3	大宮北
A決勝トーナメント1回戦	9	7	7	浦和南
浦和西	11	3	3	春日部東
行田女	23	8	8	川口青陵
埼玉栄	11	3	3	川口青陵
埼玉栄	12	3	3	浦和実
川口女	23	5	5	浦和西
同2回戦	8	5	5	行田女
伊奈学園	8	5	5	行田女
埼玉栄	23	5	5	浦和西

川口女	5	5	5	浦和学院
山口女	1	5	5	浦和学院
同準決勝	12	0	0	伊奈学園
西武台	22	4	4	川口女
埼玉栄	11	9	9	行田女
順位決定戦	14	5	5	浦和学院
浦和西	11	9	9	行田女
同hプロック	17	7	7	浦和西
八潮	9	3	3	川口女
浦和学院	5	3	3	川口女
同iプロック	17	7	7	浦和西
八潮	9	3	3	川口女
3位決定戦	10	7	7	本庄女
伊奈学園	12	4	4	浦和市立
同jプロック	10	7	7	本庄女
熊谷女	12	4	4	筑波坂戸
小松原	19	8	8	筑波坂戸
大宮開成	12	3	3	所沢北
同kプロック	15	4	4	浦和商
熊谷女	10	6	6	春日部工
小松原	15	10	10	春日部工
大宮開成	16	2	2	庄和
同準決勝	14	10	10	小松原
熊谷女	11	4	4	大宮開成
川口北	7	1	1	大宮開成
同決勝	6	1	1	大宮開成
川口北13	2	1	1	大宮開成

羽島北	18	3	3	大垣南
岐阜北	17	8	8	海津
岐阜南	8	7	7	瑞浪
岐阜商	18	2	2	各務原西
高山	20	8	8	長良
大垣女子	23	6	6	池田
富田女子	20	8	8	長良
同2回戦	26	5	5	本巢
養老女商	13	10	10	羽島北
岐阜北	8	6	6	岐阜商
高山	23	4	4	大垣女子
同3回戦	27	8	8	岐阜北
養老女商	21	6	6	高田
富田女子	8	7	7	13富田女子
同決勝	7	7	7	13富田女子
養老女商	16	7	7	各務原西
岐阜東	11	6	6	加納
岐阜西工	16	7	7	各務原西
海津	12	4	4	郡上
大垣工	13	8	8	中京商
海津北	16	14	14	長良
羽島北	12	10	10	大垣南
羽島北	18	4	4	益田
市岐阜商	22	3	3	高山工
同3回戦	11	6	6	岐阜東
岐阜西工	20	9	9	海津
大垣工	14	11	11	羽島北
市岐阜商	14	11	11	羽島北
市岐阜商	14	11	11	羽島北
同準決勝	30	13	13	大垣工
岐阜西工	20	7	7	海津北
市岐阜商	9	7	7	10岐阜西工
同決勝	6	7	7	10岐阜西工
市岐阜商	18	1	1	斐太
同1回戦	22	1	1	斐太
養老女商	11	1	1	大垣西

第10回松野杯岐阜県高校選手権

(8月14、16日/岐阜南高校)

男子

岐阜南24	13	11	11	11多治見北
同1回戦	14	12	12	岐阜
大垣北	23	14	14	大垣北
同2回戦	14	13	13	大垣北
中津	23	14	14	大垣北
各務原	14	13	13	益田
益田南	14	7	7	各務原東
同3回戦	9	5	5	不破
加納	17	10	10	各務原
中津	9	8	8	益田南
同決勝	8	4	4	益田南
加納	3	8	8	10加納
中津	11	6	6	10加納
同子選リーグA	16	10	10	松江(島根)
徳山(山口)	20	18	18	津山(岡山)
松江	32	17	17	津山
同子選リーグB	17	16	16	宇部(山口)
米子(鳥取)	16	12	12	宇部
呉(広島)	13	13	13	宇部
同決勝トーナメント1回戦	21	13	13	米子
徳山	23	9	9	米子
同決勝	11	4	4	12呉
徳山	3	11	11	12呉

中国

第19回中国地区高専大会

(7月13日、15日/徳山市体育館)

女子

Your Daiwa Staff

ライフプランは暮らしの中でも大きなテーマです。このテーマにトータルにお応えできるのが〈ダイワ〉です。信託もできるべりりな都市銀行として、財産の管理と運用、不動産の売買仲介と有効利用、年金や相続・贈与の設計、ローンのお世話から自動サービス、さらに国際業務と、幅広くバックアップさせていただきます。お客さまとともに明日を創造するBank〈ダイワ〉をぜひご活用ください。



大和銀行



もっと大きな声で 夢を語りあいたいな

夢を語る時の瞳は、
いつもキラキラ輝いています。
夢を、未来を、カタチに変える、
そんな新時代への冒険心を
大同特殊鋼は大切にしたいと思います。
夢を語りあいたい……あなたと。

“With You”



大同特殊鋼

本社 〒460 名古屋市中区錦1-11-18 (興銀ビル)

TEL (052) 201-5111

支社 東京 / 支店 大阪

平成4年度第2回全国理事

11月21日、於 東京体育館会議室

出席：渡邊副会長、中沢専務理事 他 17名

1. JOCジュニアオリンピックカップ補助金について
日本協会からの補助金は全国中学生大会と同等の60万円とする。承認
2. 第44回全日本総合選手権大会準備状況報告
3. 委員会報告
 - ア、会計委員会 10月末日現在の収支状況報告補助金減少対策検討中
 - イ、国際委員会 A H F 委員会委員に次の各氏が決定
競技・組織委員会(COC) 井 薫 氏
コーチ・方法委員会(CMC) 大西 武三 氏
医事委員会(MC) 西山 逸成 氏
 - ウ、審判委員会 審判用品価格改訂 承認
以上

平成4年度臨時評議員会

11月28日、於 東興ホテル会議室

出席 日本協会 中沢専務理事、植村常務理事、大野監事、評議員20名 委任状25名

1. 本年度の行事についての報告。
2. 本年度の財政状況についての報告。
3. 平成5、6年度役員選出方法について
(座長 高橋 健夫氏)
審議の結果、平成5、6年度は中沢体制で行くことに決定。
以上の決定に基づき中沢専務理事より新陣容を平成5年2月の第2回評議員会に提案することとした。

12月度常務理事会

12月5日 於 日本協会

出席 中沢 専務理事 他6名

1. 臨時評議員会報告
平成5、6年度役員は一部の変更は有り得るが原則として現体制とするとの結論に達した。

2月の定例評議員会で審議のうえ決定する。

2. 平成4年度事業予算の削減と平成5年度予算案提出について
JOC補助金カットに伴い各事業費予算を一律5%カットする。
平成5年度予算案は対前年第一次補正マイナス5%を目標とする。
各委員会は以上を踏まえて資料を作成12月19日までに事務局に提出することとした。
3. 増収対策について
登録金、機関紙、役員年会費、個人賛助金、検定料、リーグ加盟金等の見直しをすることとし次回以降協議することとした。
4. 全日本総合選手権大会準備状況報告
5. 委員会報告
 - (ア)強化委員会
 - (1)男子ナショナルチーム遠征報告
ハーレム、ハンドボールウィーク
(オランダカップ)
1位 オーストリア
2位 ノルウェー
3位 スイス
4位 日本
5位 オランダ
6位 ベルギー
 - (2)12月度遠征予定
第12回世界学生選手権大会
12.6 出発
12.22 帰着 サンクト ペテルブルグ
団長 中沢専務理事 他20名
 - (イ)普及委員会
JOCジュニアオリンピックカップについて
各ブロックに対し主管協会より各10万円を補助することに決定
6. 読売新聞『日本スポーツ賞』の推薦
男子ナショナルチームキャプテン
橋本 行弘を推薦

以上

NEXT ONE—セノーイズム

限りない可能性に挑戦し、感動を勝ち取っていく—セノーの仕事もまた、スポーツそのものかもしれない。妥協のないセノーの“NEXT ONE”にご期待ください。



Senoh®

セノー株式会社
東京都千代田区神田司町2-7
☎03-3292-5411

日本ハンドボール協会検定品製造工場

asics
ATHLETIC SHOES®



Barcelona '92
Olympic
41.79.03
アスICS株式会社
〒100-8555 東京都千代田区千代田1-10-1

ゴールに狙いをつけた傾斜角。

踏み付け部のエッジ
につけた傾斜が、
倒れ込みシュートを
打ちやすくしました。

コートは狭く、ゴールポストも
小さいハンドボール。厚い防御
の壁を突き破ってシュートを決める
のは、簡単なことではありません。
わずかな間隙をぬって決める倒れ込
みシュートこそ、まさにハンドボールの醍
醐味です。スカイハンド® ジャパンα-Sは、
アウトソール踏み付け部のエッジに傾斜
をつけることにより、倒れ込みシュートを打ちや
すくしました。

インドアのために生まれたスパイラルソールが
すばやい攻撃を支えます。

ハンドボールに要求されるものは、なによりもまずス
ピード。インドア専用開発されたラバー製のスパイ
ラルソールがすばやい動きにあわせて威力を発揮し
ます。動きやすく、滑りにくい。しかも、踏み付け部
には溝を配し、屈曲性をアップ。攻撃に、防御に、鍛え
ぬかれたフットワークに磨きがかかります。



品名 **スカイハンド® ジャパンα-S**

品番 **THH711** メーカー希望小売価格 **¥16,000** (消費税込)

カラー / ● ホワイト × W レッド・マリンブルー ● ホワイト × W マリンブルー・レッド

サイズ / 22.5~29.0cm



asicsは
オリンピックキャンペーンの
オフィシャルスポンサーです。

株式会社 **アシックス** ● 商品についてのお問い合わせは株式会社アシックス消費者相談室までどうぞ。

● ®は商標アシックスの登録商標です。

〒650 神戸市中央区港島中町7丁目1番1 TEL (078) 303-2233 (専用)・(078) 303-3333 (大代表)

〒130 東京都墨田区錦糸4丁目10番11号 TEL (03) 3624-1814 (専用)・(03) 3624-2221 (大代表)

スポーツあげたい、
スポーツほしい。
全国共通スポーツ券

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』

第三二七号

昭和四十年六月七日 平成五年一月二十六日 印刷
第三種郵便物認可 平成五年二月一日 発行

東京都渋谷区神南一丁目三六一番一編集兼
電話代表 三四八一―三六一
振替 東京 六一五八三四八番 発行人

中澤重夫

定価三百五拾円
(三年間購読料)
三千三百円

MIZUNO®
THE WORLD OF SPORTS

攻守を加速する
新戦力ライオンアップ。



ウイングゾーン EX-L ¥14,000
16KH-20114 サイズ:23.5-28.0
ホワイトにネイビー・ゴールド 他1色
●甲:人工皮革 ●底:ゴム、合成樹脂



ウイングゾーン EX-S ¥13,000
16KH-21162 サイズ:23.5-28.0
ホワイトにレッド/シルバー 他1色
●甲:人工皮革 ●底:ゴム、合成樹脂

RunBird
ATHLETIC FOOTWEAR



16OH-202 ¥4,700
検定球
竜甲型 天然皮革2号 HL-2



16OH-203 ¥4,800
検定球
竜甲型 天然皮革3号 HL-3



16OH-212 ¥4,400
検定球
竜甲型 天然皮革2号 HL-2A



スポーツあげたい、
スポーツほしい。

全国共通スポーツ券

●記載価格は税抜き価格です。消費税相当額はお客様にご負担いただくことになります。●ミズノ製品についてのお問い合わせは——「ミズノお客様商品相談センターMUSIC」
東京 TEL (03)3233-7110 大阪 TEL (06)614-8110